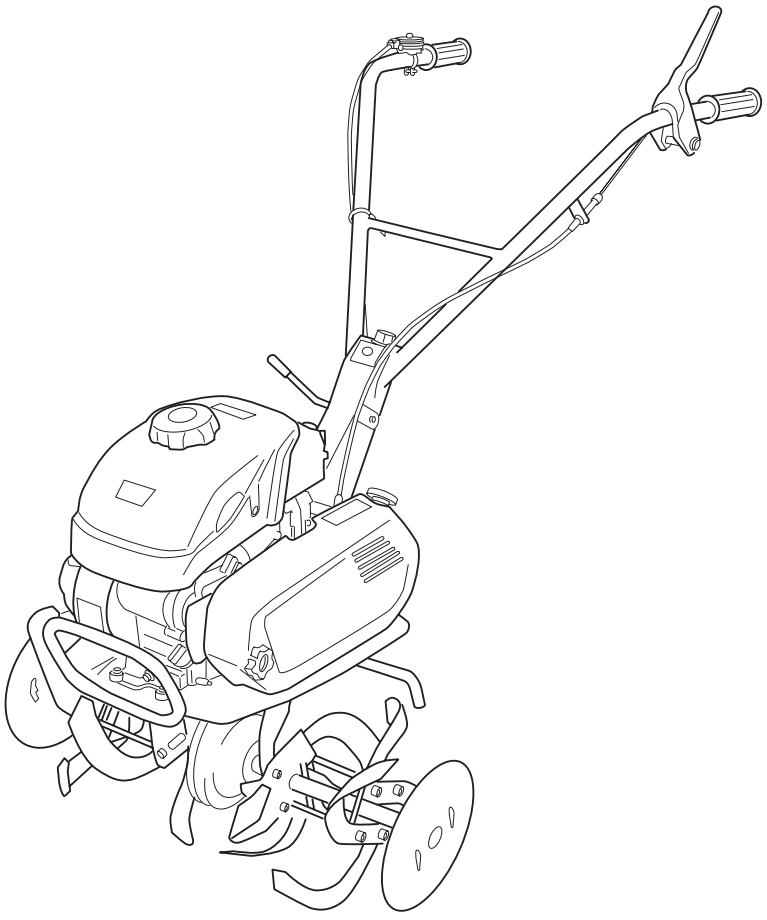
車軸式管理機

モデル **MKR300**

取 扱 説 明 書



このたびはマキタ車軸式管理機をお買い上げ賜わり厚くお礼申し上げます。

● お求めの製品を安全に能率よくお使いいただくために、ご使用前に取扱説明書をよくお読みください。

● この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

このたびは管理機をお買い上げ賜わり厚くお礼申し上げます。

●はじめに

この取扱説明書は本機の正しい取扱い方と簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管し、いつでも読めるようにしてください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書をいっしょにお渡しください。

・本書では安全上重要な事項を⚠で示し、次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	**誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負うことになるものを示します。**
⚠警告	**誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。**
⚠注意	**誤った取扱いをしたときに、使用者がケガを負うおそれのあるものを示します。**

・なお、本機の品質・性能向上あるいは安全のために使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が、本機と一致しない場合がありますのでご了承ねがいます。

●本機の使用目的について

・本機はほ場でのロータ耕うん作業、農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。使用目的以外の作業や安全装置の取外しなどの改造は行わないでください。
・本機を使用目的以外の作業に使用したり、改造したりした場合は保証の対象となりません。（詳細は保証書をご覧ください）

こんなとき、こんなことが知りたいとき、ここを見てください！

この取扱説明書は次のように構成されています。まず、**安全作業のために**からお読みいただき、基本事項から操作、点検まで本機の正しい取扱い方を理解してください。

ページ

● **安全な作業をするための注意事項は？** **安全作業のために** 安全作業説明編

安全な作業をしていただくために安全に関する基本事項、表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

● **ご自分で梱包を開かれるときは？** **開梱のしかた**

● **使用前に知っておかなければならないことは？** **ご使用前に 1**

本機の概要**「仕様（装備）」**等について説明しています。

● **各部のはたらきを知るには？** **各部のはたらき 3**

各部の主な名称、操作レバー、装置の取扱いを説明しています。

● **管理機を動かすには？** **運転のしかた 6**

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
運転操作のしかた：エンジンの始動、走行のしかた、自動車への積み降ろしのしかた等を説明しています。

● **ほ場作業を行うには？** **作業のしかた 13**

管理機作業の基本操作を説明しています。作業機の条件や、ほ場条件にあった調整をして、上手な作業をしてください。

● **本機を長もちさせるには？** **手入れのしかた 16**

本機をいつも正常な状態に保つために手入れのしかたについて説明しています。
「定期点検整備表」に従って保守、点検してください。

● **本機を１ケ月以上格納するときは？** **長期格納のしかた 24**

本機を長期間格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

● **故障かなと思ったときは？** **不調時の処置 27**

作業中のトラブルや不調、異常を感じたときはすぐ原因を調べ処置してください。

● **諸元は？** **付　　表 29**

本機に係わる諸元表を一覧表で説明しています。

もくじ

安全作業のために……（安全作業説明編）

開梱のしかた

ご使用前に……1

1．保証とサービスについて…… 1
2．仕様（装備）について…… 2
3．用語について…… 2

各部のはたらき……3

1．各部の名称…… 3
2．運転装置の取扱い…… 4
1．エンジンコントロール関係…… 4
2．運転装置関係…… 5

運転のしかた……6

1．運転前の点検…… 6
2．エンジンの始動と停止…… 7
1．エンジン始動のしかた…… 7
2．エンジン停止のしかた…… 8
3．発進・旋回・停車のしかた…… 9
1．発進のしかた…… 9
2．旋回のしかた…… 9
3．停車のしかた…… 9
4．自動車への積み降ろし……10
1．トラックへの積み降ろし……10
2．運搬のしかた……11

作業のしかた……13

1．作業前の準備……13
1．抵抗棒の取付け……13
2．ロータの取付け……13
3．ハンドルの上下調節 ……14
2．ほ場作業のしかた……15
1．ほ場への出入りのしかた……15
2．抵抗棒の使いかた……15
3．上手なほ場作業のしかた……15

手入れのしかた……16

1．定期点検整備……16
2．給油・注油のしかた……17
1．燃料の補給……18
2．エンジンオイルの点検・交換……18
3．ミッションケースのオイル点検・交換…19
4．注油個所……19
3．各部の点検と掃除のしかた……20
1．エアクリーナの掃除……20
2．燃料ストレーナの掃除……20
3．点火プラグの点検と掃除……21
4．リコイルスタータ部の掃除……21
5．燃料ホースの点検……21
4．各部の点検と調整のしかた……22
1．主クラッチの調整……22
2．コントロールケーブルの調整……23
3．ボルト・ナットの点検……23

長期格納のしかた……24

1．本機の掃除と洗浄……24
2．エンジンの手入れ……25
3．格納……26
4．再使用するときは……26

不調時の処置……27

1．エンジン部……27
2．本機関係……28

付表……29

1．主要諸元……29
2．電気配線図……30
3．付属部品一覧表……30
4．用語解説……31

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

1．安全作業のしかた……（安-1）

⚠作業前に次のことを守りましょう！……（安-1）

⚠安全作業のポイント……（安-2）

⚠作業前の一般的な注意事項……（安-3）

⚠点検・整備および掃除をするときは……（安-4）

⚠エンジンを始動するときは……（安-5）

⚠移動をするときは……（安-6）

⚠自動車への積み降ろしをするときは……（安-7）

⚠ほ場で作業をするときは……（安-8）

⚠１日の作業が終わったら……（安-10）

⚠長期格納するときは……（安-10）

2．表示ラベルについて……（安-11）

安全作業のために

1．安全作業のしかた

・安全上の重要な事項を **⚠危険** **⚠警告** **⚠注意** の３段階に分類して説明していますので、よく読んで理解し安全作業に努めてください。

・なお、この項の安全作業の説明は**管理機全般**についてのものです。これ以外にも本文の中でも同様に説明していますので、よく読んで必ず守ってください。

⚠作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告

◆このような人は運転しないでください。

- 酒気をおびた人
- 妊娠している人
- 16才未満の人
- 指導者のいない運転未熟練者
- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により正常な運転操作ができない人

◆運転する人は健康に気をつけて適切な睡眠と休けいをとってください。

➡ 誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。

⚠警告

◆本機を他人に貸す場合は取扱説明書もいっしょに渡して、安全な作業ができるよう説明してください。

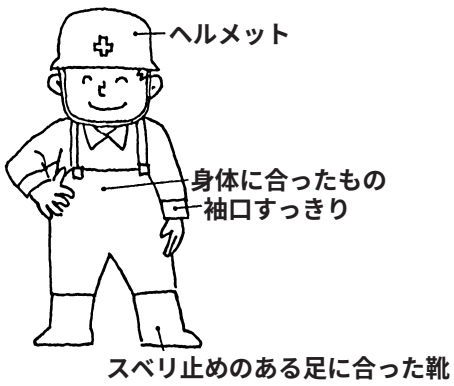
➡ 借りた人が不慣れなため思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠警告

◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。

➡ このような服装は衣服が回転部に巻込まれたり、足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。

［良い例］



［悪い例］

安全作業のポイント

- 取扱説明書、本機のラベルをよく読んでから運転してください。

始業・点検　準備点検

- 平坦な場所でエンジンを停止する。
- エンジン、マフラ、燃料タンク回りを掃除する。
- 燃料ホース、電気配線を点検する。
- 給油・点検はエンジンが冷えているときに行う。
- 各部の締付け、セットピンの脱落はないか確認する。
- 燃料補給時は火気を近づけない。
- クラッチ、レバー関係が働くか点検する。
- 取外したカバー類は全て取付ける。

エンジン始動

- 各操作レバーを《中立》または《切》にする。
- 本機の周囲から人を遠ざける。
- 屋内やハウスでの始動は、窓や戸を開けて換気をする。

移動・運転　自動車への積み降ろし

- アユミ板は強度、幅、長さ、すべり止め、フックのあるものを使用する。
- アユミ板は隙間がないものを使用する。
- アユミ板は自動車の荷台に平行にかけ、フックが外れないことを確認する。
- 積み降ろしは２人作業で行なう。
- 周囲を確認し、本機の回りに人を近づけない。
- エンジンを停止し、積込みは後進方向に引上げ、降ろすときは後進方向に引き降ろしてください。
- アユミ板の上ではクラッチ操作や変速操作をしない。

移　　動

- 発進は周囲を確認して行う。
- 発進、停止、旋回は低速で行う。
- 人や物を本機にのせない。
- 公道および夜間の移動は自動車にのせて行う。

傾斜地の移動

- スピ―ドを落として走行する。
- 下り坂では速度を下げてエンジンブレーキを使う。
- 傾斜地では主クラッチを切ったり、変速レバ―を《中立》にしない。

停車・駐車

- 平坦な場所でエンジンを停止する。
- 傾斜地では駐車しない。（やむをえないときは輪止めをする）

ほ場作業　ほ場の出入り

- 低速であぜに対して直角に行う。
- 高あぜ、急傾斜、溝越えは耕うん爪のひっかからない、隙間が無くすべらない処理がしてあるアユミ板を使用する。
- アユミ板を使用するときはエンジンを止めて引き上げる。
- あぜがくずれないか確認し、ゆっくり行う。

ほ場での作業

- 人を本機のそばに近づけない。
- 旋回時は周囲、足元を確認して行う。
- あぜ際での作業は枕地を十分とって旋回する。
- 急傾斜地では作業をしない。
- 疲れを感じたら無理に作業を続けず休憩をする。
- 本機はライトが付いていないので、夜間や暗い所での作業はしない。

作業途中の点検

- 運転直後のエンジン、マフラ等、高温部に触れない。
- ロータ等に巻付いた草や土を取除くときはエンジンを停止して行う。
- 作業機の脱着は平坦な場所で行う。
- 取外したカバーはすべて取付ける。

格　　納　１日の作業が終わったら

- 平坦な場所に置きエンジンを停止する。
- 高温部が冷えてからエンジン、マフラ、燃料タンク回りを掃除する。

長期格納

- 燃料コックレバーを「閉」にし、気化器内の燃料を抜取る。
- カバーはエンジンが冷えてからかける。
- 改造しない。

⚠作業前の一般的な注意事項

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆本機はほ場でのロータ耕うん作業、農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。その他の目的では使用しないでください。

➡ 思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆本機は改造しないでください。

➡ 改造すると本機の機能に悪影響を与えるだけでなく事故の原因になることがあります。

⚠警告 ◆管理機を使用する前後に点検を行い、異常個所は直ちに整備してください。

◆シーズンごとに定期点検・整備を受けてください。

➡ 整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。

● 換気が不十分な所では暖機運転や作業はしない。

➡ 排気ガス中毒で気分が悪くなったり、酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。

⚠警告 ◆本機に人や物を乗せたり、人を近づけないでください。

● 管理機や作業機の上に人や物を乗せない。人を近づけない。

➡ 思わぬ事故を引起こす原因となります。

⚠点検・整備および掃除をするときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告

◆点検・整備・掃除は平坦な場所でエンジンを停止してから行なってください。

➡ 本機が動きだし思わぬ事故を起こします。

⚠警告

◆エンジン、マフラ、燃料タンクまわりにワラクズやゴミなどが付着していないか作業前に点検し、付着していれば取除いてください。

➡ 火災事故を引起こすことがあります。

⚠危険

◆給油、注油、点検時はエンジンを停止し、エンジン回転中やエンジンが熱い間は給油、注油をしないでください。

◆燃料補給時はくわえタバコなど火気を近づけないでください。

- 燃料を補給したときは燃料キャップを締め、こぼれた燃料はきれいにふきとる。
- エンジン始動前に給油、注油、各部の点検をする。

➡ 燃料などに引火し、ヤケドや火災の原因となることがあります。

⚠注意

◆点検整備に必要な工具類は適正な管理をし、正しく使用してください。

◆管理機の点検調整に必要な工具類を常備しておいてください。

➡ 整備不良で事故を引起こすおそれがあります。

⚠警告

◆各部のボルト・ナットのゆるみ、セットピンの脱落、損傷はないか確認してください。

- クラッチ、レバー関係などの操作部は確実に働くように調整する。

➡ 思わぬ事故を引起こす原因となります。

⚠注意

◆点検・整備などで外したカバーなどは全て取付けてください。

- カバーは正しく取付ける。

➡ 本機に巻き込まれたりして傷害事故を起こすことがあります。

⚠警告

◆電気配線のコードが他の部品に接触していないか、はがれや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。

➡ ショートしてヤケドや火災の原因となります。

⚠エンジンを始動するときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆始動する前に周囲を確認し、管理機の周囲から人を遠ざけてください。

➡ 人が近づくと傷害事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆屋内やハウス内等での始動は窓や戸をあけて換気を十分にしてください。

➡ 排気ガス中毒で気分が悪くなったり、酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。

⚠警告 ◆始動は正しい姿勢で行なってください。

➡ 本機が急に動き出し人身事故や傷害事故の原因となることがあります。

⚠警告 ◆暖機運転は主クラッチを《切》、主変速レバーを《中立》にして、平坦な場所で行なってください。

➡ 本機が動き出し人身事故や傷害事故の原因となることがあります。

⚠警告 ◆主クラッチの《切》、主変速レバーの《中立》を確認してください。

◆始動は正しい姿勢で行なってください。

- 主変速レバーが《中立》になっているか手で動かして確認する。
- 足場の不安定な場所での始動は行わない。やむをえない場合は本機を固定し、水平な状態で行う。
- 周囲を確認し、合図してから始動する。

➡ 変速やクラッチが入っていると本機が急に動き出し人身事故や傷害事故の原因となることがあります。

⚠移動をするときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆発進するときは本機の回りから人を遠ざけて、低速で発進してください。

- 前後左右を確認し、屋内の支柱等障害物がないことを確認して行う。

➡ 傷害事故を引起こす原因となります。

⚠警告 ◆急発進、急停止、急旋回はしないでください。

- 移動は歩くスピードで、不整地は低速で行う。
- 旋回するときは低速で行う。

➡ 転倒事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆人や物を本機にのせないでください。

- 道のりが遠くても、その他どんな場合でも人を作業機の上にのせない。

◆公道および夜間の移動は自動車にのせて行なってください。

➡ 傷害事故の原因となることがあります。

⚠警告 ◆路上での移動は行なわないでください。

- 雨天、雨あがりのときは低速で慎重に走行する。

➡ 路肩がくずれ、横転事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆傾斜地では主クラッチを操作しないでください。

- 下り坂では低速でエンジンブレーキを使用して走行する。

➡ エンジンブレーキがきかなくなり事故の原因となります。

⚠警告 ◆停車、駐車をするときは平坦な場所に置き、エンジンを停止してください。

- 傾斜地には駐車しない。やむをえず傾斜地に止めるときは本機の安定を確認し、輪止めをする。

➡ 本機が動き出して事故の原因となります。

⚠自動車への積み降ろしをするときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告

- 荷台から本機がはみ出さない自動車を使う。
- 自動車は駐車ブレーキをかけ、輪止めをする。

➡ 思わぬ事故を引起こします。

⚠警告 ◆アユミ板は強度、幅、長さ、すべり止め、フックがあるものを使ってください。

- アユミ板は隙間がないものを使用する。
- 本機の質量に耐える強度のもの（金属製）を使用する。
- 幅がロータリ幅以上で、長さが荷台高さの４倍以上あるものを使用する。

➡ アユミ板が外れたりして転倒事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆アユミ板を荷台に平行にかけてください。

- アユミ板は荷台に対して真っ直ぐにかける。
- 荷台にかけた端が外れないようにフック付のアユミ板を使用する。
- エンジンを停止し、積込みは後進方向に引き上げ、降ろすときは車上で反転させ後進方向に引き降ろしてください。
- 積み降ろしは２人作業で行なう。
- 本機の回りに人を近づけない。

➡ バランスがくずれて転倒事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆アユミ板の上では主クラッチを切らないでください。

- 途中で操作する必要がないよう左右位置や平行を確認し、低速で行う。
- 耕うん爪等をひっかけないようにする。

➡ 進路変更すると急旋回して転倒事故を起こすことがあります。

⚠危険 ◆ライトバン等の密閉空間になる状態で本機を運搬する場合は、燃料タンクおよび気化器内の燃料を完全に抜き取ってから積込んでください。

➡ 燃料が気化し室内にガソリンが充満したり燃料もれが発生し火災の原因になります。

⚠ほ場で作業をするときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆高あぜ、急傾斜、溝越えは耕うん爪のひっかからない、隙間が無くすべらない処理がしてあるアユミ板を使用してください。

- アユミ板を使用するときはエンジンを止めて引き上げる。

◆あぜ越えは低速であぜに対して直角に行なってください。

- あぜがくずれないか確認しゆっくり行う。

➡ バランスをくずしたりして転倒事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆作業中は本機のそばに人を近づけないようにし、わき見運転や手ばなし運転をしないでください。

➡ 傷害事故の原因となります。

⚠警告 ◆旋回するときは周囲や足元を確認し、あぜの上にあがったり、土手ぎりぎりで旋回しないでください。

- あぜ際での作業は枕地を十分にとって余裕をもって旋回する。

➡ 傷害事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆ロータ等に巻付いた草や土を取除くときや耕うん爪の交換をするときは、平坦な場所でエンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

➡ 巻き込まれたりして傷害事故を引起こすことがあります。

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆作業前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラス等を取除いてください。

◆作業中異物に当たったときはすぐにエンジンを止め、損傷を調べてください。
損傷したまま再始動しないでください。

➡ 回転している爪に異物が当たると強い力で異物が飛び散り、傷害事故を起こしたり、また損傷したまま使用すると思わぬ事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆夜間作業を行わないでください。

➡ 本機に巻き込まれたりして傷害事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆急傾斜地では作業をしないでください。

➡ 転倒事故を引起こす原因となります。

⚠警告 ◆作業途中で点検するときは高温部に触れないでください。

- 点検、掃除はエンジンを停止し、高温部は冷えるまでは直接触れない。
- 取外したカバーは全て取付けてから作業を開始する。

➡ ヤケドすることがあります。

⚠警告 ◆ハウスや小屋の中で作業するときは背後や支柱際の障害物を確認しながら行なってください。

- 支柱やカモイに頭を打ったりハンドルを引っかけたりしないようにする。
- 支柱際の作業での旋回はハンドルを壁と反対側の広い方に回して旋回する。

➡ 本機と支柱の間にはさまれたりして傷害事故を引起こすことがあります。

⚠1日の作業が終わったら……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆作業が終了したら平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い、掃除をしてゴミなどを取除いてください。

- 高温部が冷えてからエンジン・マフラ・燃料タンク回りのゴミ等を除去・掃除する。
- 掃除後指定個所に注油する。

➡ 火災の原因となることがあります。

⚠警告 ◆カバーをかける場合はマフラやエンジンが冷えてから行なってください。

➡ 火災事故を引起こすことがあります。

⚠長期格納するときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆各部を水洗いして平坦なところで本機を安定させて格納してください。

- 故障個所、爪の摩耗があれば早目に修理、交換する。
- ボルトやナットがゆるんだ状態であれば直ちに締めつける。

➡ 思わぬ事故の原因になることがあります。

⚠警告 ◆シーズン終了後には定期点検を受けてください。

- １年ごとに定期点検・整備を受け、各部の保安を確保してください。

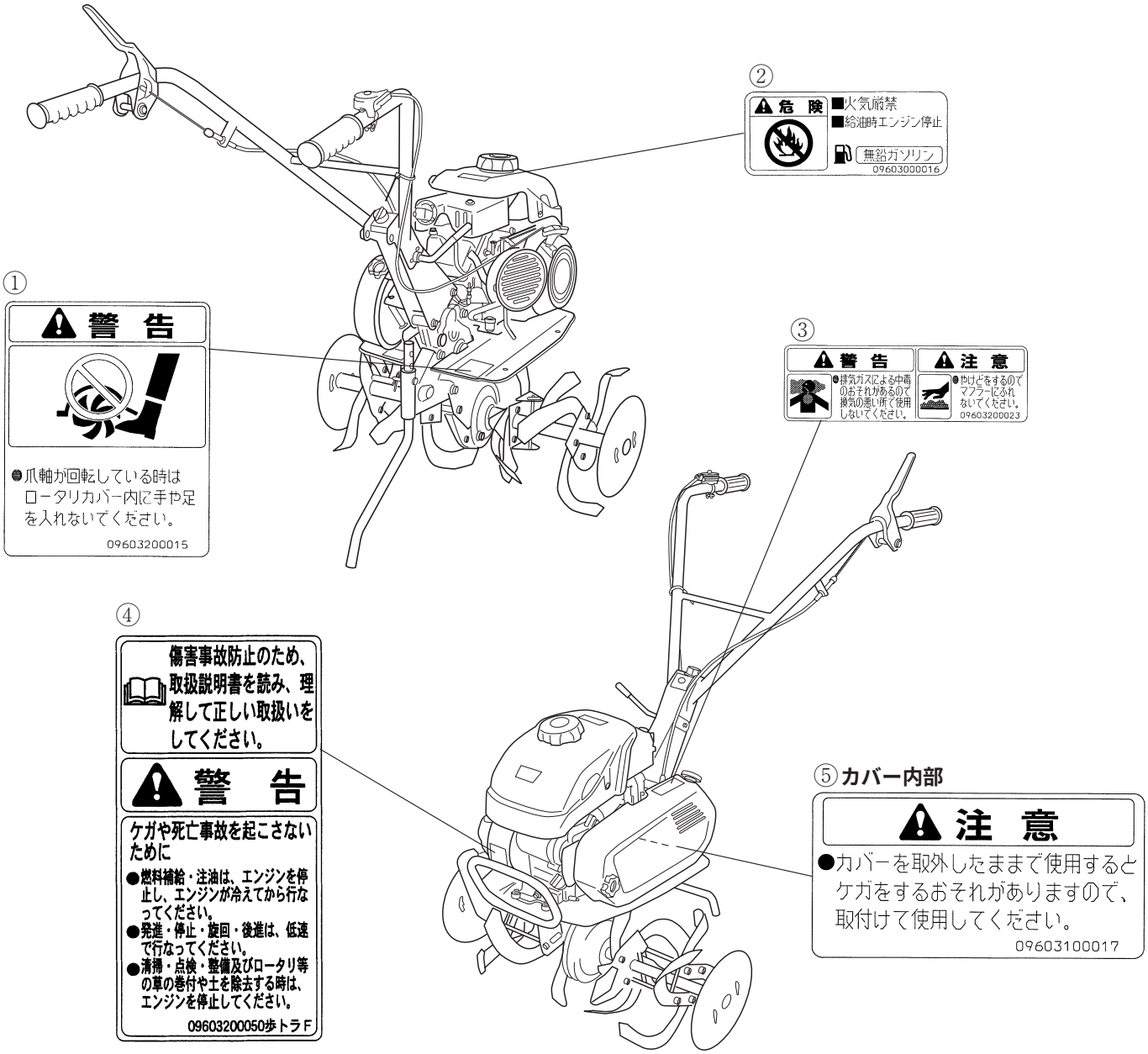
◆燃料を抜取ってください。

- 燃料腐敗で気化器内部を腐食させるので燃料コックレバーを《閉》にし、気化器下側のプルドレンから気化器内の燃料を抜取る。

2．表示ラベルについて

本機には各運転装置の近くに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また、本機に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルをお買い上げの販売店またはお近くの当社営業所に手配願います。



No.	部　品　名　称	部　品　番　号	備　　考
①	ケイコクラベル　タイン	0960 3200 015	
②	キケンラベル　　ガソリン	0960 3000 016	
③	ケイコクラベル　ハイガス	0960 3200 023	
④	ケイコクラベル　ホトラＦ	0960 3200 050	
⑤	チュウイラベル　カバー	0960 3100 017	

開梱のしかた

次の手順と要領で開梱し、本機を運転できる状態にします。

1．段ボール側面をカッター等で切り取ります。このとき本機を傷付けないように注意してください。

2．本機・抵抗棒・ロータを段ボールから取り出します。

3．ハンドルを取付けます。

① ハンドルの支点ピンをハンドルフレームの切り欠き部（L型）に沿って差し込んでください。

② ハンドル上下調節レバーで締め付け固定してください。

③ コントロールケーブルをワイヤバンドでハンドルに取付けてください。

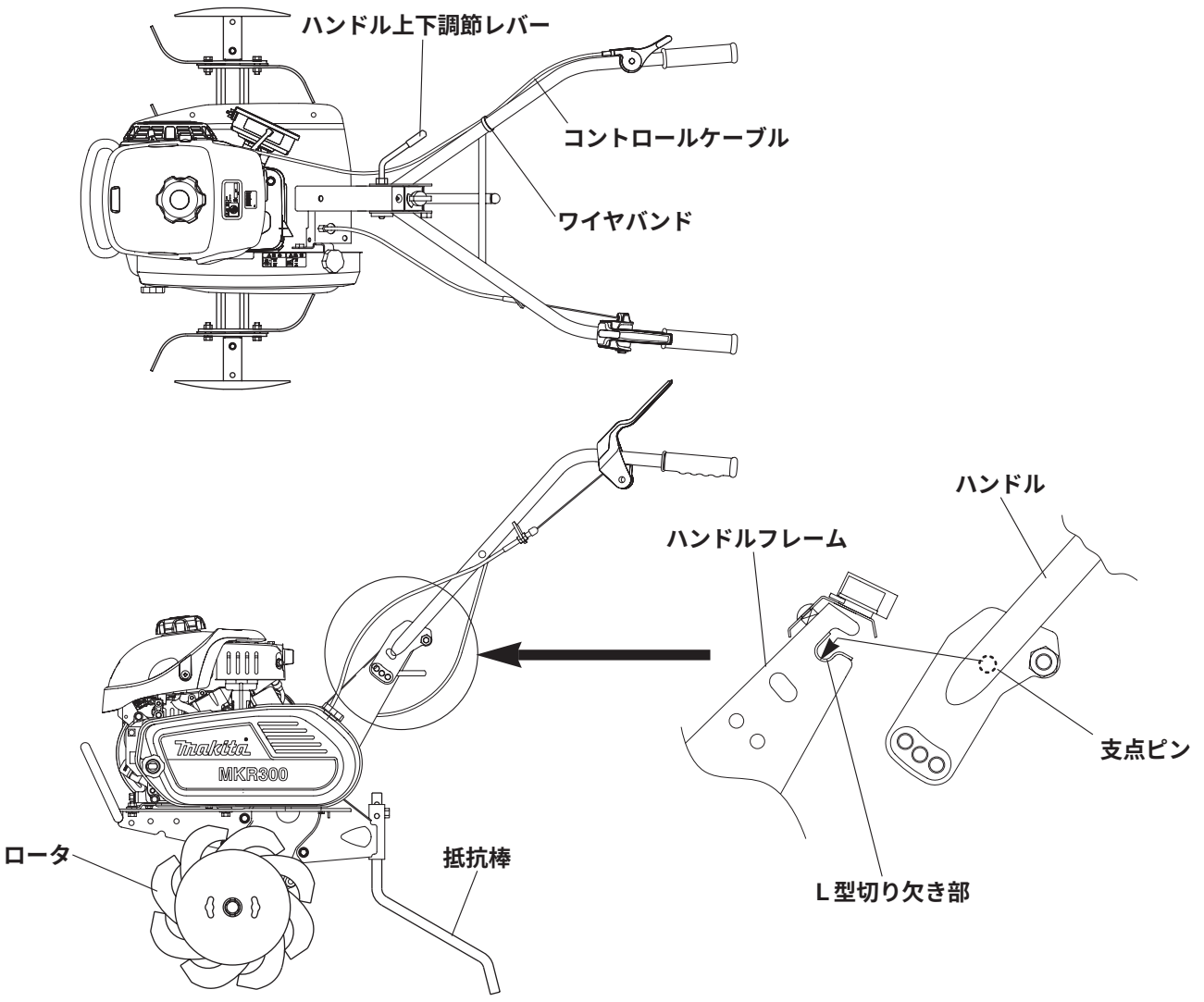
4．ロータを取付けます。（13ページ参照）

① ロータに付いているピン、スナップピンを取外してください。

② ロータを車軸に差込みピン穴を合わせてピン、スナップピンで取付けてください。（右側のロータには荷札を付けています。）

5．抵抗棒を取付けます。（13ページ参照）

6．ガソリンを給油します。（18ページ参照）



地球環境を守るために

このたび（社）日本陸用内燃機関協会（陸内協）が環境保全のために定めた排出ガス自主規制に適合エンジンを搭載しました。

この自主規制は小型汎用火花点火エンジンの排出ガス中の炭化水素（HC)、窒素酸化物（NOx)、および一酸化炭素（CO）を低減するためのもので、識別のため陸内協で決定した右図の適合ラベルをエンジンファンカバー等に貼付けています。

使用期間中は、次の事項を守ってください

１．自主規制適合ラベルは剥がさないでください。

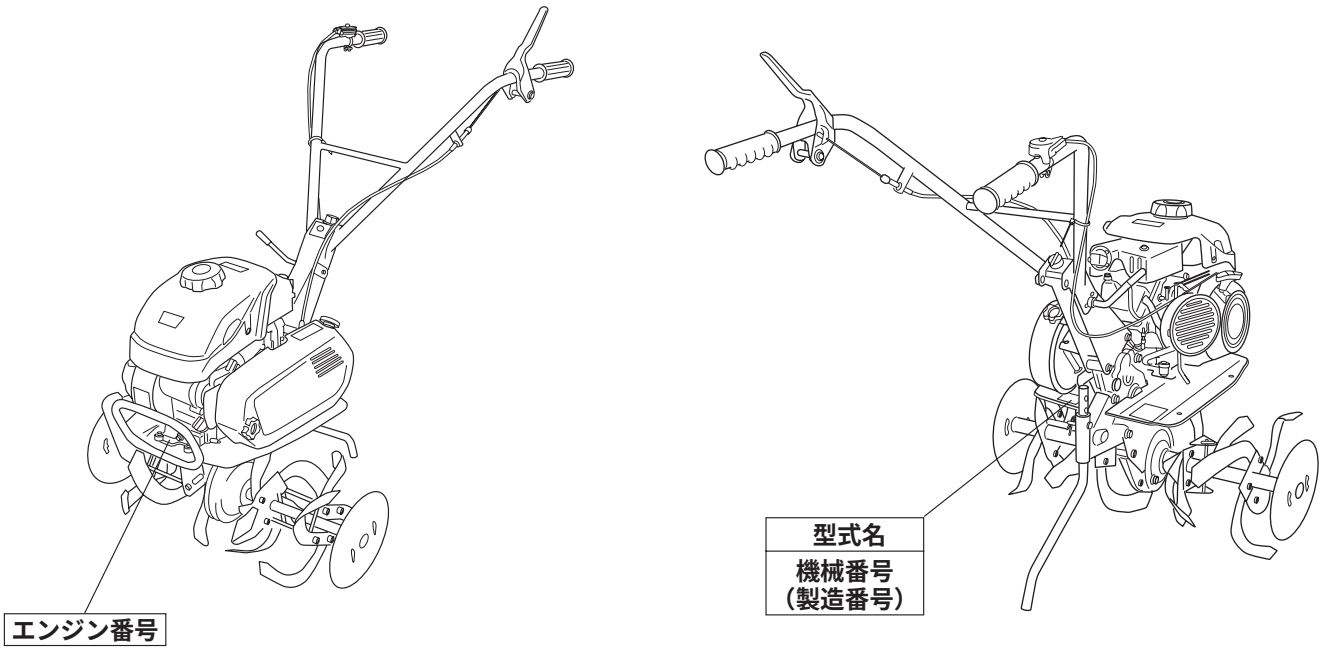
２．エンジンの点検整備は、取扱説明書にしたがって実施してください。
気化器の調整、部品交換が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業所にご相談ください。

本エンジンは排出ガスの量が規定値内になるように管理出荷していますが、運転中の吸入空気と燃料の混合比に影響する気化器の調整、整備不良、不適切な部品交換がされた場合、排出ガス量は規定値を外れることがありますので注意願います。

ご使用前に

1．保証とサービスについて

・本機には保証書が添付されていますのでご使用前によくお読みください。
・本機のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときはお買い上げの販売店またはお近くの当社営業所にご相談ください。その際**「型式名（区分）」・「機械番号（製造番号）」**と「**エンジン番号**」をお知らせください。



・補修用部品の供給年限について

・この製品の補修用部品の供給年限（期間）は製造打ち切り後９年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

・補修用部品の供給は原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

本機の使用目的について

・本機は、**ほ場でのロータ耕うん作業、農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。**使用目的以外の作業や安全装置の取外し等の改造は行わないでください。
・本機を使用目的以外の作業に使用したり、改造したりした場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。詳細は保証書をご覧ください。

⚠警告

◆本機を使用目的以外の作業に使用しないでください。
◆安全装置の取外し等、本機を改造しないでください。改造すると本来の機能を発揮できないばかりか、人身事故の原因になることがあります。

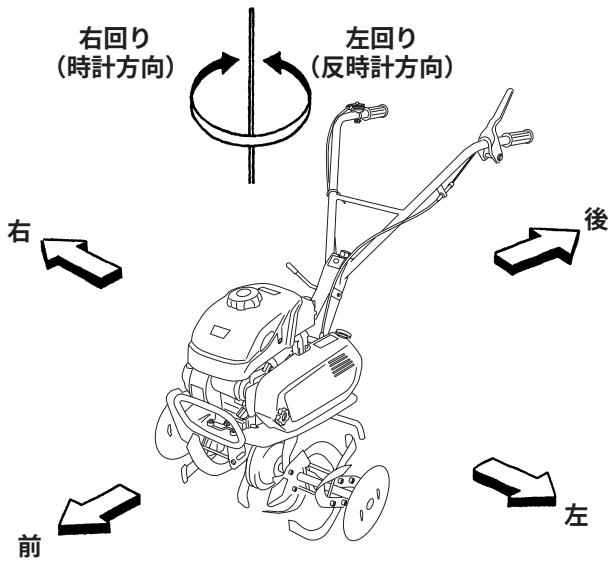
2．仕様（装備）について

・主な仕様（装備）は次のようになっています。
・本機の型式と主な仕様を次の表でお確かめください。

仕　様 型式名	エンジン最大出力 （kW{PS}）	主クラッチ方式	ロータ
モデルMKR300	1.8 {2.4}	ベルトテンション （デッドマンクラッチ）	ナタ爪

3．用語について

❶　この取扱説明書に使用している**「前後・左右・右回り・左回り」**などの用語は図示のように決めています。



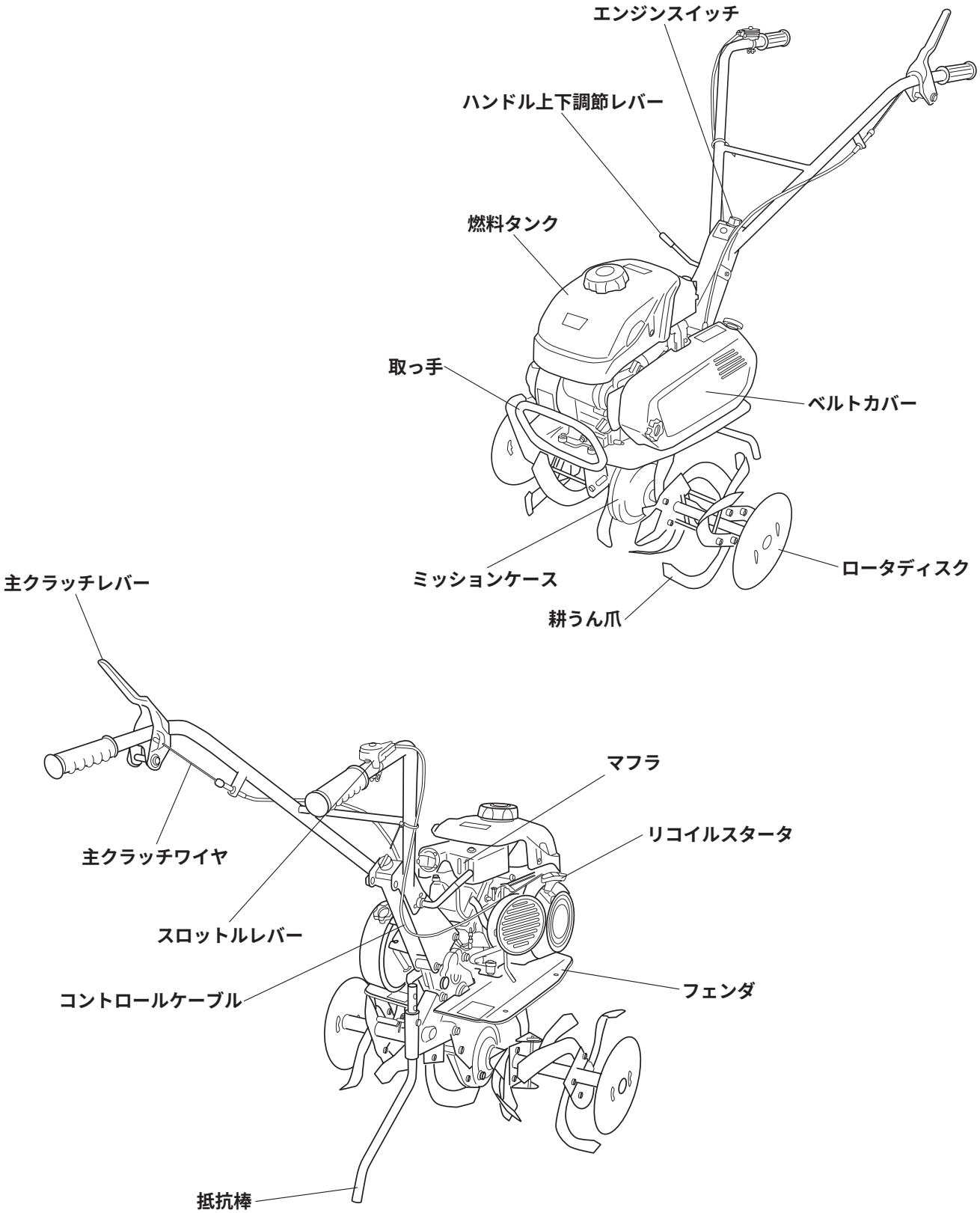
❷　マークの説明

この取扱説明書ではそのつど守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

・危険 警告 注意 ……安全上重要な事項を 3 段階に分けて説明していますので必ず読んでください。
・**取扱いのポイント** ……本機の性能を最大限に発揮するための説明です。守らないと故障の原因になることもあります。

各部のはたらき

1．各部の名称

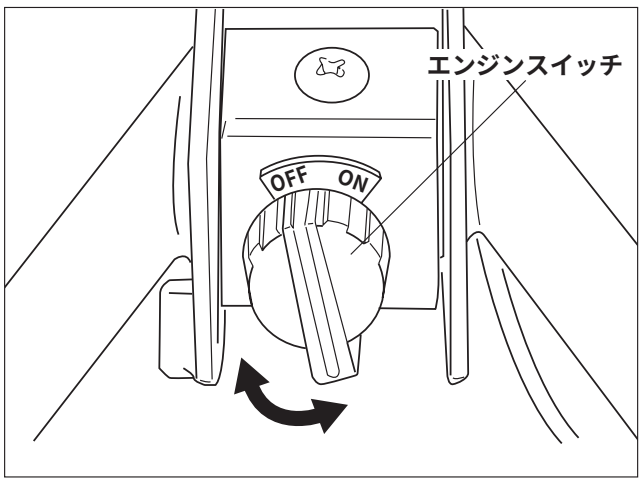


2．運転装置の取扱い

1．エンジンコントロール関係

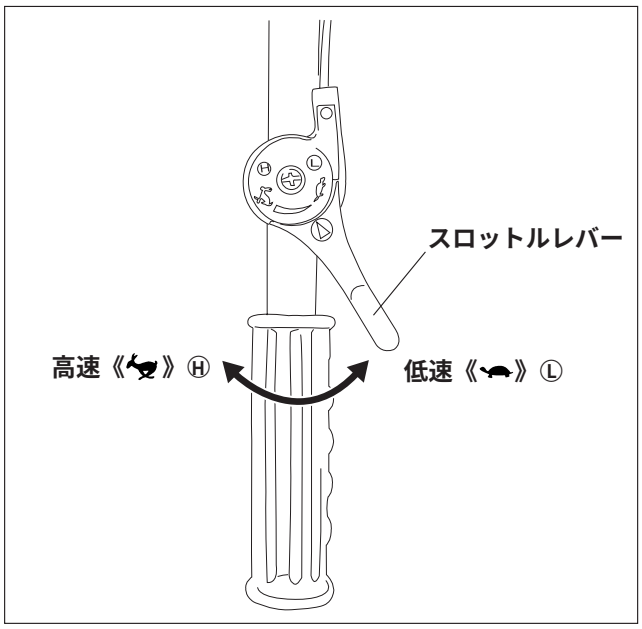
❶ エンジンスイッチ

エンジンを始動・運転するときは**《ON》**、停止するときは**《OFF》**に回します。



❷ スロットルレバー

《低速》……右に操作すると**「低速」**になります。
《高速》……左に操作すると**「高速」**になります。
エンジン始動時は**「中間」**にします。



❸ 燃料コックレバー

タンク内の燃料を出したり、止めたりするときに操作します。

❹ プルドレン

気化器内の燃料を排出するときに使用します。燃料コックレバーを**《閉》**位置にしてから引きます。

・流れ出る燃料は容器に受けてください。

❺ チョークレバー

エンジンを始動するときに使用します。

レバーを**《閉》**の位置にすると燃料の混合気が濃くなり、エンジンの始動を容易にします。

外気温度が低いときはチョークレバーを**《閉》**位置で始動します。

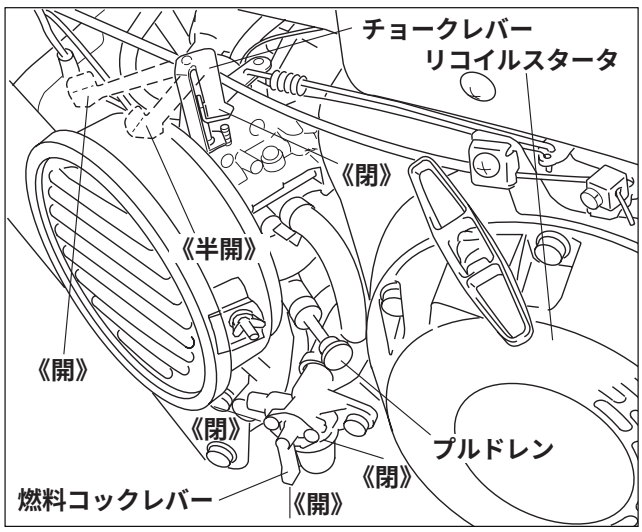
エンジンが暖まっているとき、または外気温度が高いときはチョークレバーを**《開》**位置か、または**《半開》**位置で始動します。

エンジンが始動したらエンジンの調子をみながらレバーを**《開》**の位置に戻します。(外気温度が高いときでもエンジンが始動しない場合は、チョークレバーを**《閉》**または**《半開》**の位置にしてください)

❻ リコイルスタータ

エンジンを始動するときに使用します。

リコイルスタータの握りを勢いよく引いてエンジンを始動します。



取扱いのポイント

- **ロープを引き出せないところまで引ききると、故障の原因となることがあります。**
- **運転中はリコイルスタータを引かないでください。**

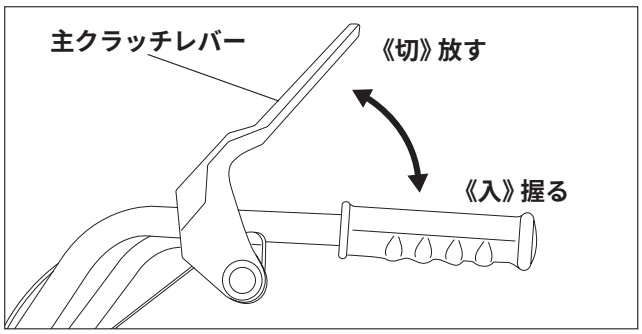
2．運転装置関係

❶　主クラッチレバー

車軸（ロータ）の動力を**《入》《切》**するときに操作します。

クラッチ**《入》**操作は主クラッチレバーを握ります。

クラッチ**《切》**操作は主クラッチレバーから手を放します。

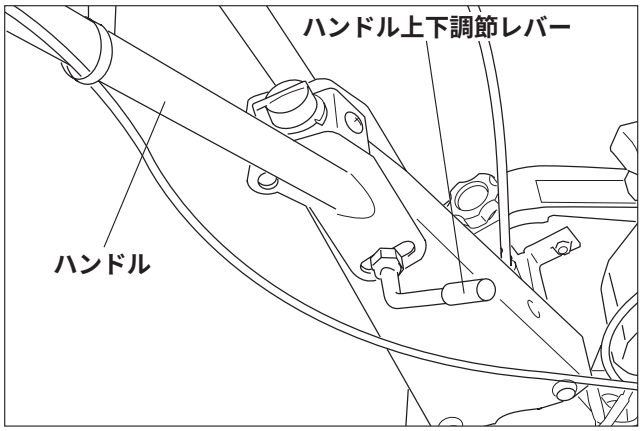


❷　ハンドル上下調節レバー

ハンドルを使用する人の身長や作業の種類にあわせて使いやすい高さに調節するときに使用します。

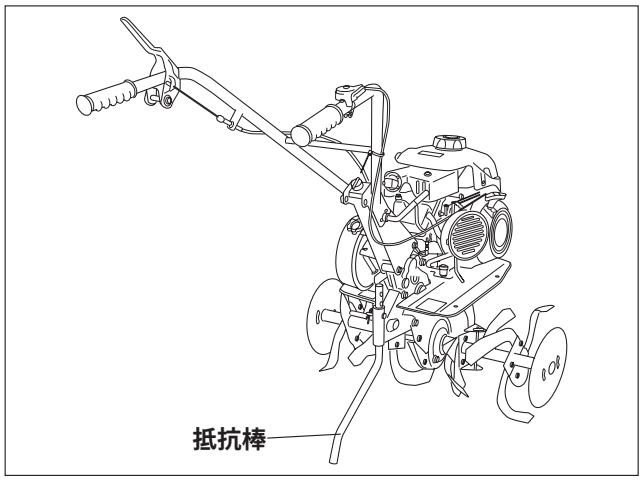
・ハンドルの高さの調節はハンドル上下調節レバーをゆるめて調節します。（６段の調節ができます）

・レバーは確実に締めつけます。



❸　抵抗棒

耕うん深さと作業速度のバランスを取るために使用します。



運転のしかた

1．運転前の点検

安全作業のために毎日の運転前に**「運転前の点検表」**を参考に点検してください。

⚠警告　傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときには本機を平坦な場所に置き、エンジンを停止してから行なってください。

⚠危険　ヤケドや火災防止のために

◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油をしないでください。
◆燃料補給時は火気に近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給したときは燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
◆燃料タンクや燃料ホースの老化や、傷によるもれなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し、傷やもれがあれば交換してください。

「運転前の点検表」

点検個所			処置
運転前に	エンジンオイルの量	・給油ネジにあるレベルゲージの上下線の間に油面があるか。	・油面が給油ネジレベルゲージの上限になるまで補給する。（18ページ参照）
	燃料ストレーナ	・水やゴミがたまってないか。 ・ネットの目詰まりはないか。	・掃除する。（20ページ参照）
	燃料タンク	・作業に必要な燃料があるか。	・無鉛ガソリンを補給する。（18ページ参照）
	エアクリーナ	・エレメントは汚れてないか。	・掃除する。（20ページ参照）
	リコイルスタータの吸気口	・吸気口の目詰まりはないか。	・掃除する。（21ページ参照）
	燃料ホース	・燃料もれはないか。 ・老化してないか、また傷はないか。 ・継手部のクランプはゆるんでないか。	・ホースを交換する。（21ページ参照） ・クランプを交換してしっかりと固定する。
	エンジン、マフラ、燃料タンク周囲	・ワラクズ等のゴミがたまってないか。	・掃除する。
	耕うん爪	・爪が確実に固定されているか。 ・爪が摩耗していないか。	・取付部を締付ける。 ・爪を交換する。（13～14ページ参照）
	各部の注油	・油切れはないか。	・適量の注油をする。（19ページ参照）
エンジンを始動して	主クラッチレバー	・ゆっくりとレバー操作をしたとき正常に作動するか。	・異常個所を調べ処置する。（22ページ参照）
	スロットルレバー	・ゆっくりとレバー操作をしたとき正常に作動するか。	・異常個所を調べ処置する。（23ページ参照）
	エンジンスイッチ	・エンジンスイッチを**《停止》**位置にしたときエンジンが停止するか。	・異常個所を調べ処置する。（９ページ参照）

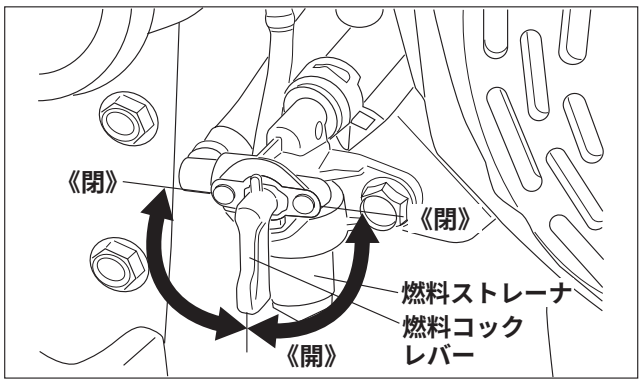
2．エンジンの始動と停止

⚠警告　傷害事故防止のために

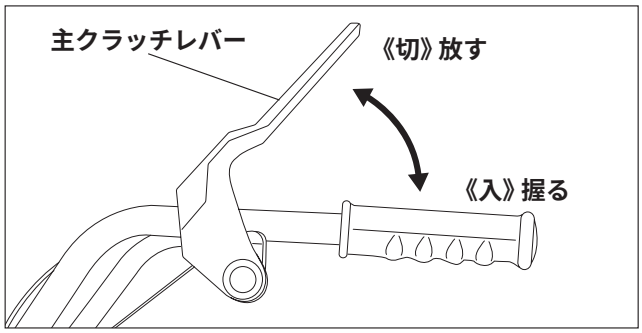
◆本機を平坦な広い場所に置き、マフラ、マフラ排気口付近の燃えやすいものは取除いてください。
◆ハンドルを離しても本機が動かないように抵抗棒またはアタッチメント（作業機）で安定させます。
◆点検等で取外したカバー類はすべて取付けてください。
◆エンジンを始動するときは主クラッチレバーを《切》にしてください。
◆マフラ排気口付近に燃えやすいものを置かないでください。
◆屋内やハウスでの始動は窓や戸を開けて換気を行い、排気ガス中毒にならないようにしてください。
◆マフラやエンジンには冷えるまで触れないでください。熱いときに触れると「やけど」をします。
◆リコイルスタータを引くときにプラグキャップや高圧コードに触れないでください。触れると「感電」することがあります。

1．エンジン始動のしかた

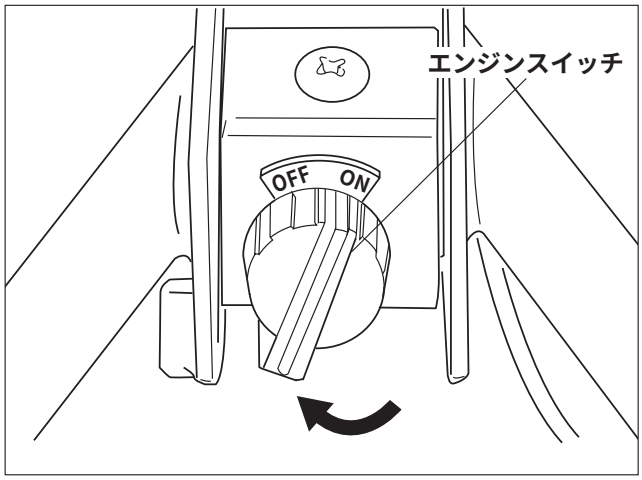
❶　燃料ストレーナの燃料コックレバーを**《開》**位置にします。

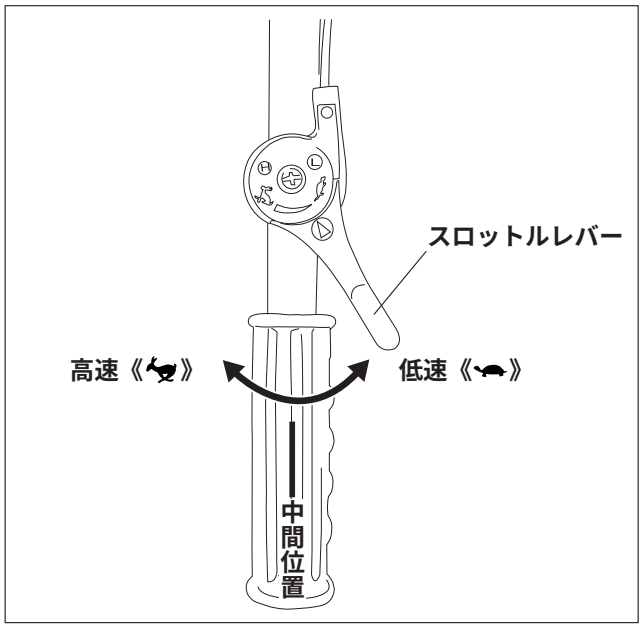


❷　主クラッチレバーを**《切》**にします。
※主クラッチレバーより手を放せば自動的に**《切》**となります。

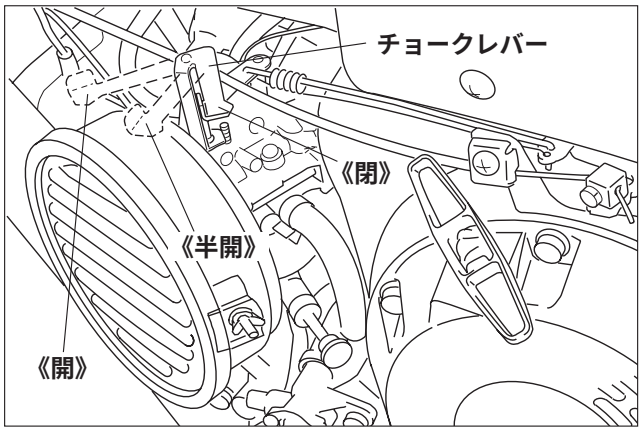


❸　エンジンスイッチを**《ON》**位置にし、スロットルレバーを**《低速》**と**《高速》**の中間にします。





❹　外気温度が低いときはチョークレバーを**《閉》**位置にします。



エンジンが暖まっているとき、または、外気温度が高いときはチョークレバーを**《開》**位置か、または**《半開》**位置にします。(外気温度が高いときでもエンジンが始動しない場合はチョークレバーを**《閉》**または**《半開》**位置にしてください)

❺　リコイルスタータの握りを勢いよく引きます。

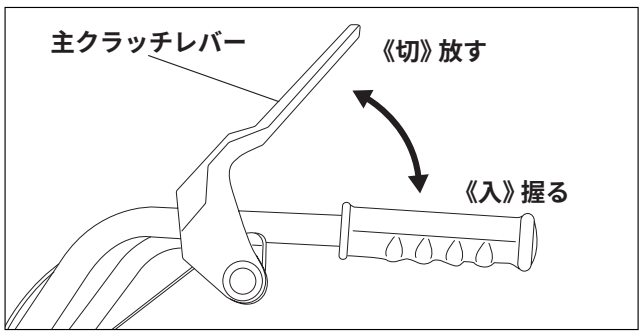
・エンジンが始動したらエンジンの調子をみながらチョークレバーを徐々に**《開》**に戻します。

取扱いのポイント

- **チョークレバーを《閉》にして２～３回で始動しないときは、チョークレバーを《開》にし、リコイルスタータを２～３回ゆっくり引いた後、再度リコイルスタータを引いてください。《閉》のままだと燃料の吸い込み過ぎになり、さらに始動が困難になります。**
- **プラグキャップを外したままでリコイルスタータを引かないでください。**
- **エンジン始動後は、スロットルレバーを《低速》と《高速》の中間にし、約５分間暖機運転をしてから作業をしてください。**
- **本機を前後へ必要以上の角度に傾けたり、長時間の傾斜状態での運転はさけてください。前に倒しすぎるとガソリンがエンジン内にオーバーフローすることがあり、後に倒しすぎるとエアクリーナエレメントにオーバーフローしエンジンの始動が困難になることがあります。**
- **やむをえず機械を傾けるときは燃料コックレバーを《閉》の位置にしてください。**

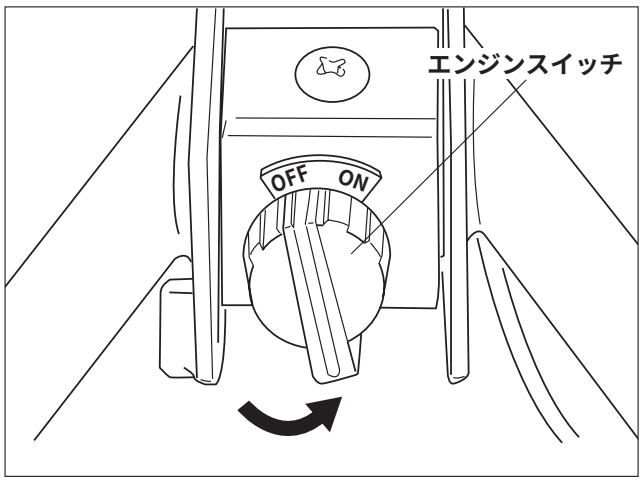
２．エンジン停止のしかた

❶　主クラッチレバーを**《切》**にします。
(手を放せば**《切》**になります)



❷　スロットルレバーを**《低速》**にします。

❸　エンジンスイッチを**《OFF》**位置にしてエンジンを停止します。



❹　燃料コックレバーを**《閉》**にします。

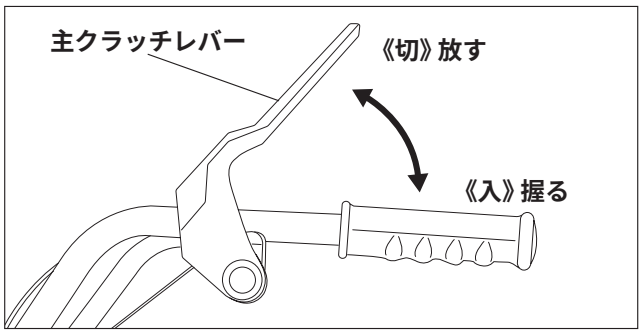
3．発進・旋回・停車のしかた

1．発進のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆本機は小型特殊車両ではありませんので路上走行はできません。
◆エンジンを始動するときは、主クラッチレバーを《切》にしてください。（主クラッチレバーから手を放すと自動的に《切》になります）
◆主クラッチレバーを急激に操作すると急発進したり、エンジンが停止したりしますので徐々に《入》にしてください。
◆緊急時には主クラッチレバーから手を放してください。

❶　スロットルレバーを**《低速》**にします。
❷　主クラッチレバーを徐々に**《入》**にすると発進します。



❸　スロットルレバーを操作し、エンジン回転を上げます。

2．旋回のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆旋回するときは足元を確認してロータに巻込まれないようにしてください。

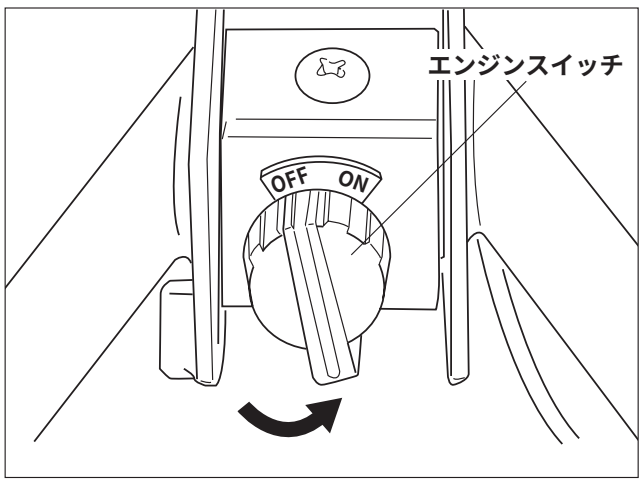
ハンドルを持上げてスロットルレバーを**《低速》**にして旋回してください。

3．停車のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

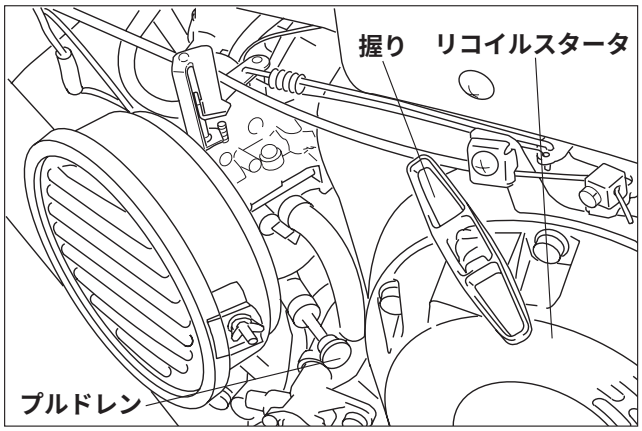
◆本機を止めるときは平坦な場所を選んでください。
◆燃えやすいものの近くには停車しないでください。
◆エンジンが熱いときはカバーをかけないでください。「火災」の原因になります。

❶　主クラッチレバーを**《切》**にします。
❷　スロットルレバーを**《低速》**にします。
❸　エンジンスイッチを**《OFF》**位置にしてエンジンを停止します。



❹　燃料コックレバーを**《閉》**にします。

❺　長時間使用しないとき（１ヶ月以上）はプルドレンを引き気化器内の燃料を抜きます。



取扱いのポイント

- **エンジンを停止するときは２～３分間低回転で運転してから停止してください。**
- **本機が傾斜した状態でエンジンを停止したときは、燃料コックレバーを《閉》の位置にしてください。燃料がオーバーフローしエンジンが始動困難になることがあります。**
- **エンジンを停止したあと長期間使用しないときはリコイルスタータを引き重くなった位置（圧縮位置）にしてください。**
- **長時間使用しないときはプルドレンを引き気化器内の燃料を抜いてください。**

４．自動車への積み降ろし

１．トラックへの積み降ろし

・まわりに障害物のない平坦で硬い場所を選び、運転者は誘導する補助者と協力して次のことを守って、慎重に行います。

⚠警告　傷害事故防止のために

- **◆アユミ板が傾いたりしない平坦な場所を選んでください。**
- **◆自動車は駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、タイヤに輪止めをしてください。**
- **◆アユミ板は本機の重量に耐える強度､幅(車輪が外れない幅)､長さ（荷台高さの４倍以上）のある､すべり止め､フック付き､耕うん爪が引掛からないものを使用してください。**
- **◆アユミ板は隙間がないものを使用してください。**
- **◆アユミ板のフックは段差のないように、またずれないように荷台に確実にかけてください。**
- **◆積み降ろしは２人作業で行なってください。また本機の周囲に人を近づけないでください。**
- **◆積み降ろしはエンジンを停止し、主クラッチレバーを《切》にして、積込みは後進方向に引上げてください。また、降ろすときは後進方向に引き降ろしてください。**
- **◆アタッチメント(作業機)は取外して積み降ろしを行なってください。**
- **◆自動車で本機を輸送中は急発進・急停止をやめ、カーブでは減速してください。本機の落下等の事故を起こすことがあります。**

・自動車・アユミ板について

❶　本機質量の積載を満たす自動車で荷台からはみ出さない車を使用します。

❷　アユミ板は本機のロータ幅に合わせて自動車の荷台と平行に段差のないようにかけ、横ずれしたり、はずれたりしないか確認します。

アユミ板の基準

長さ	自動車の荷台高さの４倍以上
幅	30㎝以上
数量	２枚
強度	１枚が100㎏以上の質量に耐えるもの
隙間が無くすべらない処理がしてあるもの	

・トラックへの積込み

❶　エンジンを停止して行います。

❷　積込みは後進方向で引き上げます。

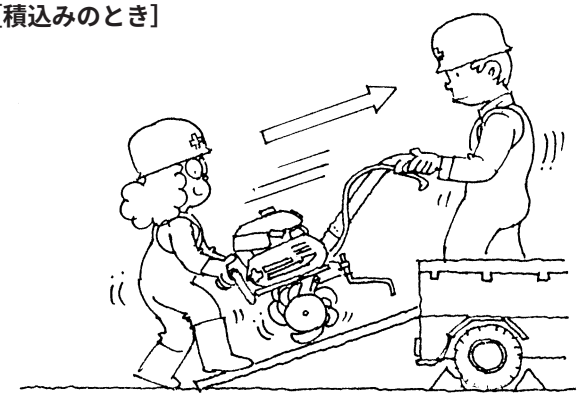
❸　降ろすときも（車上で反転させ）後進方向で引き降ろします。

❹　積込み後は耕うん爪部に輪止めをします。

❺　燃料コックレバーを**《閉》**にします。

❻　本機は抵抗棒を自動車の荷台の床に付けて、ロープで固定します。

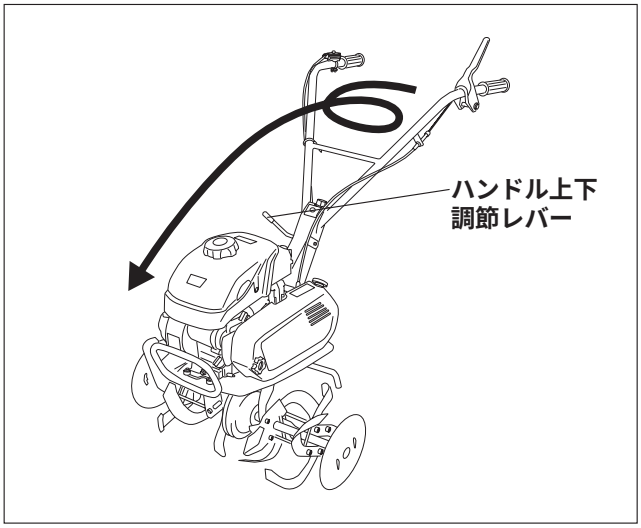
［積込みのとき］



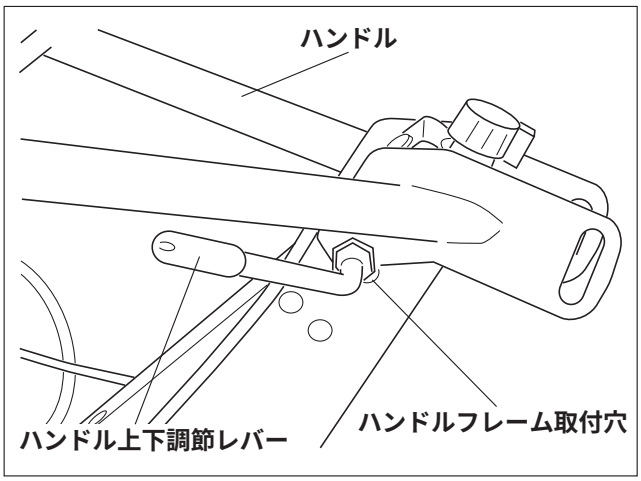
２．運搬のしかた

長距離を運搬するときや、コンパクトにして運搬したいときは次の要領でハンドルを折りたたみ、運搬することができます。

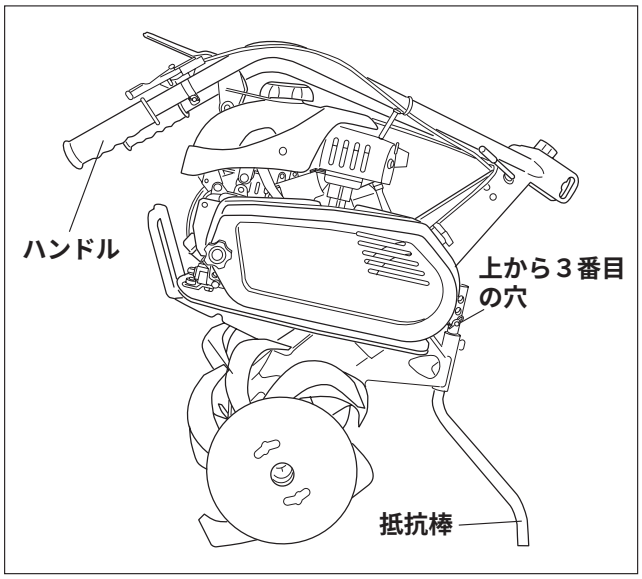
❶　ハンドル上下調節レバーをゆるめて取外し、ハンドルを**「逆向き」**につけ替えます。



❷　取外したハンドル上下調節レバーをハンドルとハンドルフレームの取付穴を合わせて挿入し、締付けます。



❸　本機が前側に倒れないよう抵抗棒の上から３番目の穴にクレビスピンを差込みスナップピンで固定します。



取扱いのポイント

●運搬するときは本機を水平にして燃料コックレバーを《閉》の位置にしてください。

作業のしかた

1．作業前の準備

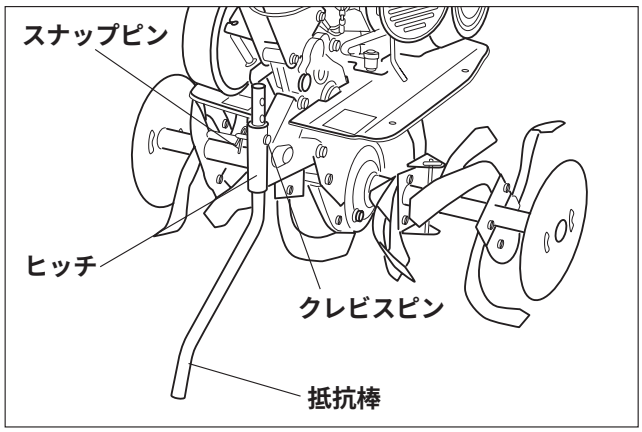
⚠警告　傷害事故防止のために

◆本機は正転耕うんのため、ほ場のかたさにより機械が飛出すことがあります。
◆作業前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラス等を取除いてください。

1．抵抗棒の取付け

ヒッチ部は抵抗棒・アタッチメント（作業機）などを取付ける部分です。

抵抗棒の取付けは希望の高さにクレビスピンを差込み、スナップピンで固定します。



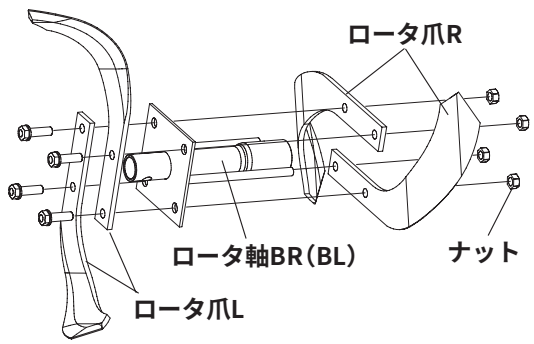
2．ロータの取付け

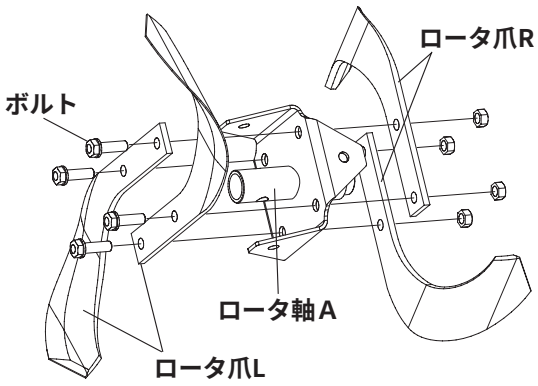
❶　耕うん爪を左右対称に下図のように組付けます。

⑴　ロータ軸Ａにロータ爪Ｌ、Ｒを組付けます。

⑵　ロータ軸ＢＬ、ＢＲにロータ爪Ｌ、Ｒを組付けます。

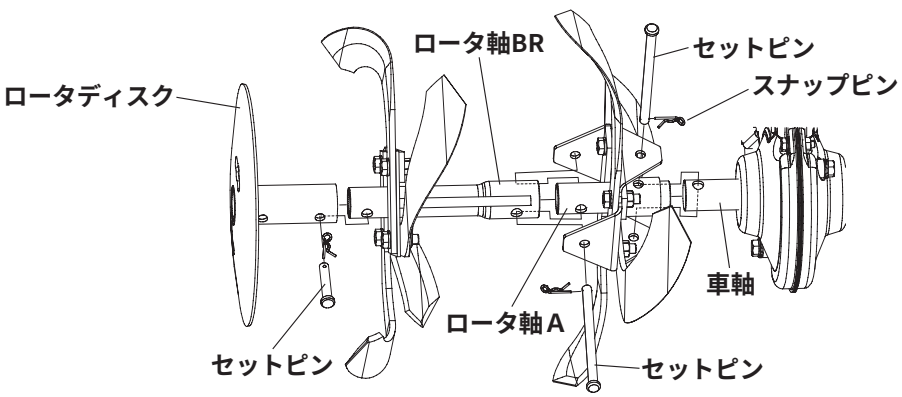
[右側の例]



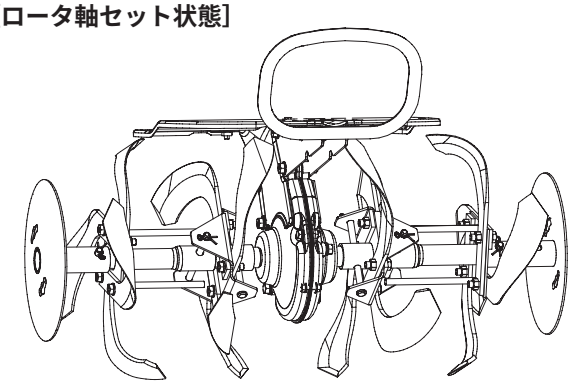


❷　ロータ爪を組付けたロータ軸A、ロータ軸ＢＬ、ＢＲとロータディスクを本機車軸にセットピンで取付けます。

[右側の例]



［ロータ軸セット状態］



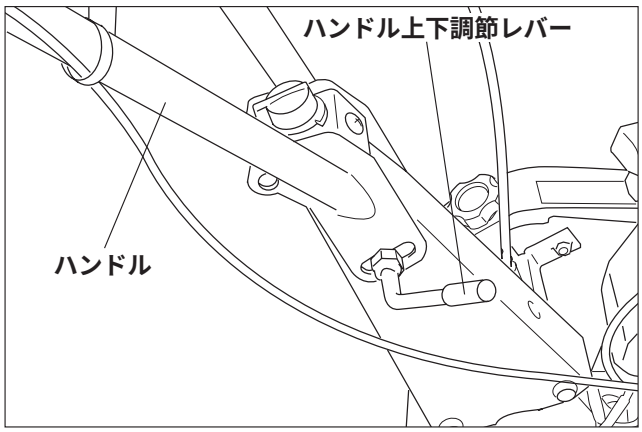
取扱いのポイント

- **ロータおよびロータアタッチメントを交換するため本機を大きく傾けるときは、燃料コックレバーを《閉》にしてください。**
  燃料コックを閉じないで交換作業をすると、燃料がオーバーフローし、エンジンが始動困難になることがあります。

3．ハンドル上下調節

⚠警告　傷害事故防止のために

◆調整範囲以上にハンドルを上下すると各レバー操作時に傷害事故を引起こすことがあります。



ハンドルは使用する人の体格や作業の種類にあわせて使いやすい高さに調節します。

ハンドルの上下はハンドル上下調節レバーをゆるめ、ハンドルプレートナットから外して行います。

調節が終わったらレバーを確実に締めつけます。

・ハンドル上下調節はハンドルフレームの穴位置を変えれば**「6段の調節」**が可能です。

2．ほ場作業のしかた

1．ほ場への出入りのしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆ほ場への出入りやあぜ越えは低速であぜに直角に行なってください。
◆高あぜ、急傾斜、溝越えは耕うん爪のひっかからない、隙間が無くすべらない処理がしてあるアユミ板を使用してください。
◆アユミ板を使用するときはエンジンを止めて引上げてください。
◆あぜがくずれないことを確認してからゆっくり行なってください。

❶　ほ場への出入りやあぜ越えは低速であぜに直角に行います。

❷　高低差が大きいほ場への出入りはアユミ板を使用し､エンジンを止めて主クラッチレバーを**《切》**にして機械を引上げます。

2．抵抗棒の使いかた

❶　耕うん深さを深くしたいときは抵抗棒を下げて土の抵抗を大きくすることにより前進速度をおさえます。

❷　耕うん深さを浅くし左右平均に耕うんするときは抵抗棒を上げて土の抵抗を少なくして作業速度を早くします。

❸　培土器等のアタッチメント（作業機）を使用するときは抵抗棒を外してヒッチにアタッチメント（作業機）を取付けます。

※アタッチメント（作業機）は別売です。

3．上手なほ場作業のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆耕うん爪の交換や、耕うん部の草の巻付きを取除くときはエンジンを停止してから行なってください。
◆作業中はハンドルを支えるだけとし、無理に押付けないでください。（硬いほ場ではハンドルを押さえ飛び出しを防止します）
◆本機を離れるときは「平坦な場所」に静止し、エンジンを停止します。

耕うん作業をしていると草、ワラ、ビニールひも等がからみつくことがあります。からみついたままにしておくとオイルシールなどをキズつけ、油洩れの原因になることがあります。

からみついた草・ワラ・ビニールひも等はこまめに取除くようにして下さい。

手入れのしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆点検・整備・掃除するときは平坦な場所に本機を置いて、エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆エンジン回りの点検・整備はエンジンが冷えてから行なってください。
◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。
◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

1．定期点検整備

・正常な機能を発揮しいつでも安全な状態であるように**「定期点検整備表」**に従って定期的に点検し、必要により掃除・調整・整備を行います。

「定期点検整備表」（点検○、交換●）

分類	点検・整備項目	整備内容	点検間隔				参照ページ
			シーズン前	30時間毎	50時間毎	格納時	備考
エンジン関係	エンジンオイル	点検・補給・交換	○（毎日作業前）	●（初回のみ）	●	○	**18**
	エアクリーナエレメント	点検・掃除	○（毎日作業前）			○	**20**
	燃料ストレーナ	点検・掃除	○（毎日作業前）			○	**20**
	燃料ホースの劣化と燃料もれ	点検・交換	○（毎日作業前）			○	**21**（2年毎に交換）
	燃料タンクの燃料	補給・抜取り	○（毎日作業前）			抜取り	**18・25**
	気化器の燃料	抜取り				抜取り	**25**
	点火プラグ	点検・掃除・交換			○	○	**21**
	エンジン取付ボルト	点検・増締	○			○	**23**
本体関係	ミッションケースの油量	点検・補給・交換	○	●（初回のみ）	●	○	**19**
	主クラッチレバー回動支点・テンションプーリ回動支点・ワイヤの注油	注油	○（毎日作業前）			注油	**19**
	各操作レバーの作動	点検	○（毎日作業前）			○	**—**
	主クラッチレバー	点検・調整	○（毎日作業前）		○	○	**22**
	Vベルトの伸び	点検・調整	○		○	○	**22**
	ボルト・ナットのゆるみ	点検・増締	○			○	**23**
	耕うん爪の摩耗・取付け	点検	○（毎日作業前）			○	**13〜14**

取扱いのポイント

●本機または、部品等を廃棄するときはお買い上げの販売店またはお近くの当社営業所にご相談ください。
●使用済み廃棄物の処理について
■廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり法令により処罰されます。
■廃棄物を処理するときは
○本機から廃液を抜く場合は容器に受けてください。
○地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
○廃油、燃料、フィルタ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または処分するときはお買い上げの販売店またはお近くの当社営業所または産業廃棄物処理業者等に相談して所定の規則に従って処理してください。

2．給油・注油のしかた

・工場出荷時は、エンジンおよびミッションケースにオイルが入れてあります。
・オイルの点検・交換は、**「運転前の点検表」**（６ページ）および**「定期点検整備表」**（16ページ）に従って行います。
・オイルの点検・交換は本機を平坦な場所に置いて行います。

取扱いのポイント

- **各給油個所には指定オイルを規定量給油してください。**
- **廃油など汚れたオイルを注油すると故障の原因となりますので使用しないでください。**
- **交換したオイルを廃却するときはお買い上げの販売店またはお近くの当社営業所または、産業廃棄物処理業者等に相談して所定の規則に従って処理してください。**

⚠警告　傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときは本機を平坦な場所に置き、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行なってください。
◆回転部・摺動部から異音が発生するときはエンジンを停止し、各部の動きが止まってから注油してください。

⚠危険　ヤケドや火災防止のために

◆燃料補給時は火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油しないでください。またオイル交換もしないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは交換してください。燃料もれがあると火災の原因となります。
◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
◆マフラ、マフラ排気口に触れないでください。

「給油・注油表」

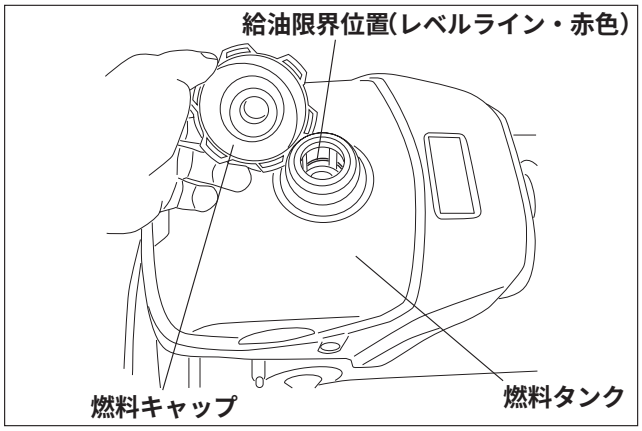
No.	給油・注油個所	種　類	分　類		容　量（L）	備　考
			API サービス分類	SAE 粘度番号		
①	燃料タンク	無鉛ガソリン	―	―	1.2	・始業時点検（必要量補給）
②	エンジン	エンジンオイル	SD級以上	10W－30	0.4	・初回30時間目に交換 ・50時間毎に交換
③	ミッションケース	ギヤオイル	GL－4級以上	80W	0.8	・初回30時間目に交換 ・50時間毎に交換
④	主クラッチレバー回動支点・テンションプーリ回動支点・ワイヤ	エンジンオイル	SD級以上	10W－30	適　量	・始業時点検

1．燃料の補給

エンジンが水平になる場所に停車し燃料キャップを外して給油口より補給します。

・燃料……自動車用無鉛ガソリン

・タンク容量……1.2Ｌ



取扱いのポイント

- **燃料はこし網内側のレベルライン（赤印）以上供給しないでください。**
- **燃料の供給はこし網を使用しゴミ等が混入しないようにしてください。**

2．エンジンオイルの点検・交換

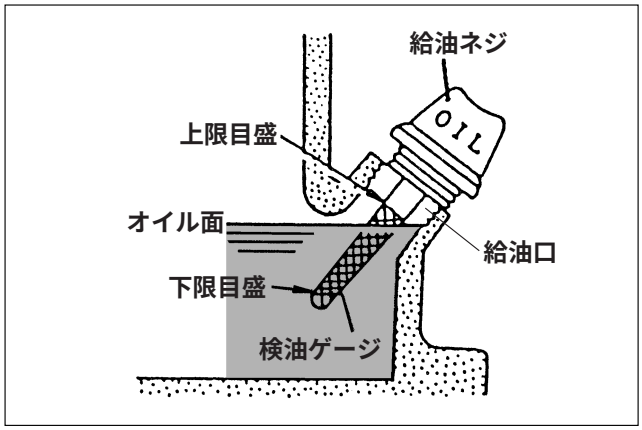
❶ **点検**……エンジンが水平になる場所に停車し、給油ネジを外して、検油ゲージ面をきれいにふき取ってから差込みます。（ねじ込まない）

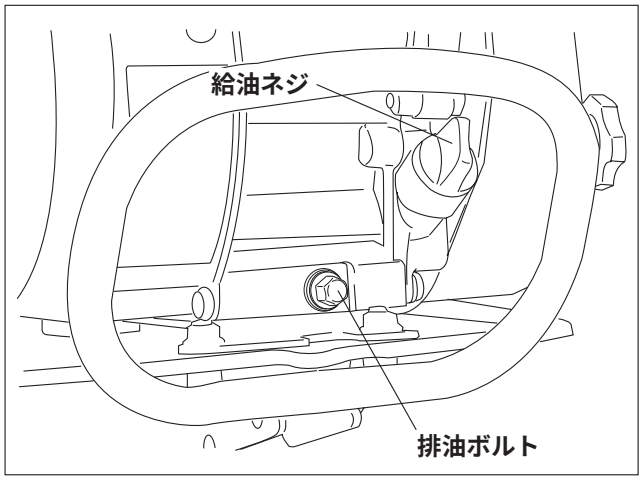
取扱いのポイント

- **検油ゲージの上限と下限の間に油面があるか確認し、不足している場合は補給します。**

・エンジンオイル……ガソリンエンジン用オイル
API・SD級以上
SAE・10W－30

・オイル量……0.4Ｌ





❷ **交換**……エンジンが水平になる場所に停車し、排油ボルトを外し、オイルを抜きます。オイルが完全に抜けたら排油ボルトを確実に締め、新しいオイルを給油口から検油ゲージの上限まで給油します。

取扱いのポイント

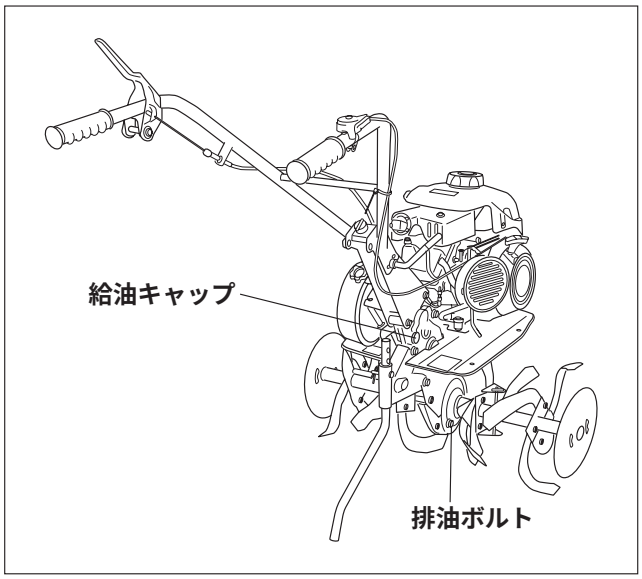
- **オイル交換後はアイドリング回転で５分間程度運転し、エンジン内部にオイルをゆきわたらせてください。**

3．ミッションケースのオイル点検・交換

❶ **点検**……給油キャップを外し本機を水平にしたとき、給油口の口元までオイルがあるか調べます。
・不足している場合は給油口の口元まで補給します。

・ギヤオイル…ギヤオイル
API・GL－４級以上
SAE80W

・オイル量……0.8Ｌ



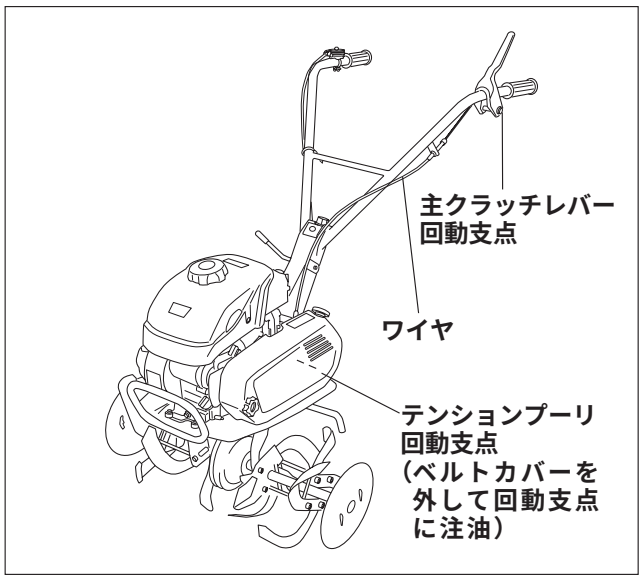
❷ **交換**……排油ボルトを外しオイルを抜きます。オイルが完全に抜けたら新しいオイルを給油口から本機を水平にした状態で給油口の口元まで給油します。

4．注油個所

・エンジンオイル……ガソリンエンジン用オイル
API・SD級以上
SAE・10W－30

・適量注油

・注油個所……主クラッチレバー回動支点・テンションプーリ回動支点・ワイヤ



サビやすい個所（車軸等）にも注油すると本機をきれいな状態で維持できます。

3．各部の点検と掃除のしかた

⚠危険　火災防止のために

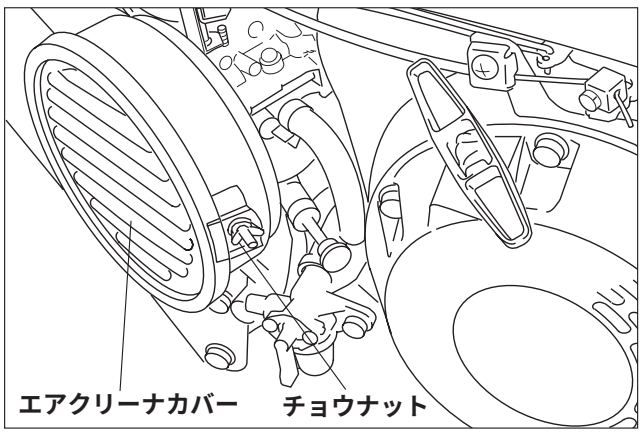
◆エレメント、ネットの洗浄にガソリンは使用しないでください。
◆作業時は火気を近づけないでください。
◆換気の良い場所で行なってください。

1．エアクリーナの掃除

エアクリーナエレメントを汚れたままで使用するとエンジンの内部損耗や出力低下をまねきます。

エアクリーナカバーの取外しかた

❶　チョウナットをゆるめ、後部の合わせ部を外します。



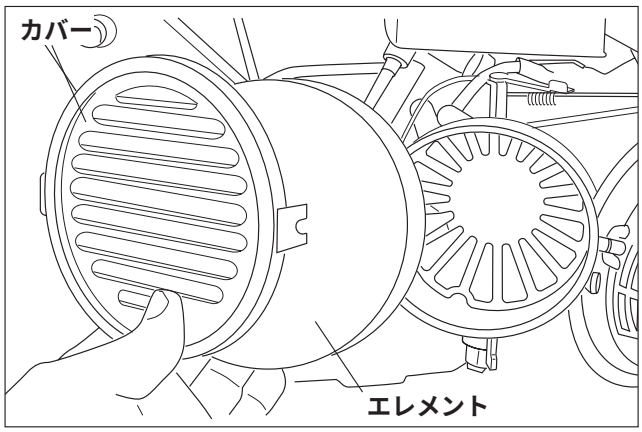
掃除のしかた

❶　エレメントにエアを吹き付けほこりを落とします。

エレメントの汚れがひどいときおよびオイル分がなくなり乾いているときは灯油で洗浄後よく絞りエンジンオイルに浸し固く絞ってから組込みます。

汚れのひどいときには、交換します。

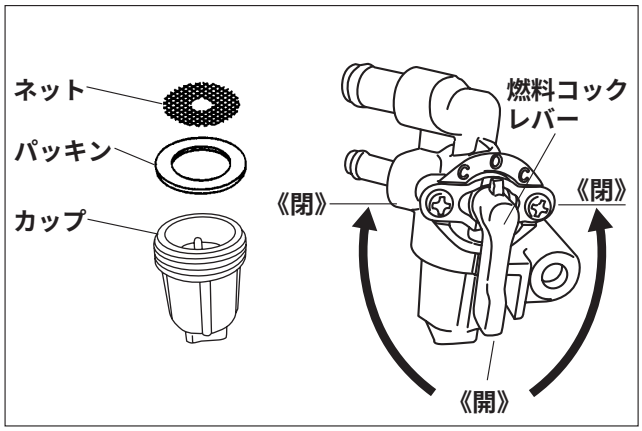
❷　カバーの内側をきれいにふきます。



2．燃料ストレーナの掃除

ストレーナカップに水またはゴミがたまっていないか点検します。

燃料コックレバーを**《閉》**にし、カップとネットを外して、灯油できれいに洗浄し取付けます。



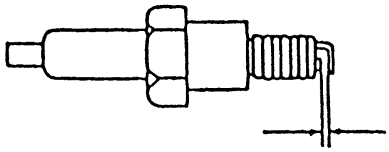
3．点火プラグの点検と掃除

⚠警告　傷害事故防止のために

◆リコイルスタータを引くときにプラグキャップや高圧コードに触れないでください。触れると「感電」することがあります。

❶　プラグキャップを外して付属のボックスレンチで点火プラグを外します。

❷　点火プラグについているカーボンを取除き、電極スキマが**「0.7㎜」**になるように点検調整します。



❸　電極部が損耗または破損しているときは新しい点火プラグと交換します。

❹　点火プラグを取付け後、プラグキャップを確実に差込みます。

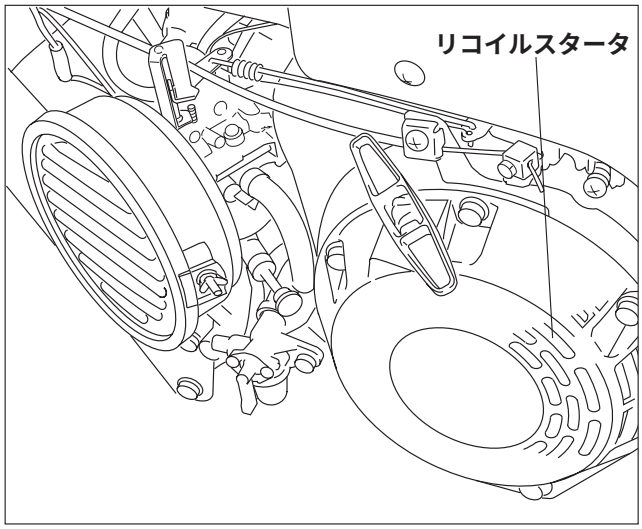
・使用点火プラグ…NGK－BPR6HSまたは
NGK－BP6HS
（納品時はNGK－BPR6HSを取付けています）

取扱いのポイント

- **プラグキャップを外したままでリコイルスタータを引かないでください。**
- **点火プラグをエンジン側にアースしないでリコイルスタータを引かないでください。エンジンの電気回路の故障になります。アースして点検してください。**
- **点火プラグの電極スキマを調整してもエンジンが始動しないときは掃除するか、または新しい点火プラグと交換してください。**

4．リコイルスタータ部の掃除

リコイルスタータ部の吸気口はきれいに掃除しておきます。ワラクズ・ゴミ等の付着があるとエンジンの過熱や出力低下の原因になります。(ここからエンジンの冷却風が吸込まれます)



5．燃料ホースの点検

⚠警告　傷害事故防止のために

◆燃料ホースの損傷、外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料がもれてないか確認し、もれている場合は火災の原因となりますので交換してください。

燃料ホースの老化や傷による燃料もれがないか、また締付バンドがゆるんでいないか点検します。

傷んでいなくても２年ごとに交換します。

4．各部の点検と調整のしかた

各部は出荷のときに正しく調整されていますが使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い、損耗の限度をこえた部品は交換し、正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告　傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は本機を平坦な場所に置きエンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。
◆調整後は異常なく作動することを試運転で確認してください。

1．主クラッチの調整

⚠警告　傷害事故防止のために

◆主クラッチレバーの調整はエンジンを停止して行なってください。
◆エンジンを始動して、ベルトの作動、停止を確認するときは他の人や物を遠ざけ、エンジンプーリやベルトに手や足を出さないでください。
◆調整後はベルトカバーを取付けてください。
◆ベルトを張りすぎないでください。ベルトを張りすぎると主クラッチが切れず、事故を起こす恐れがあります。

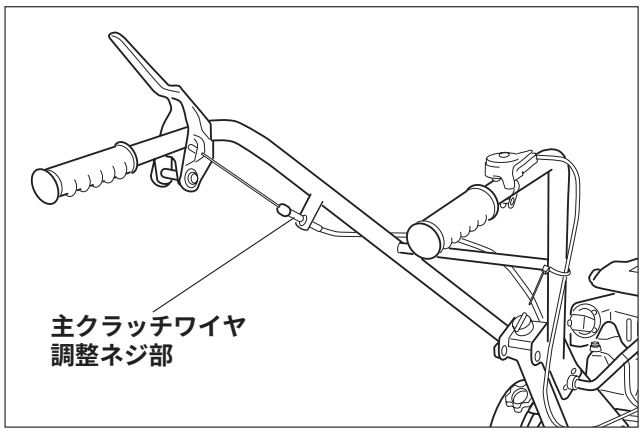
主クラッチはベルトテンション式です。

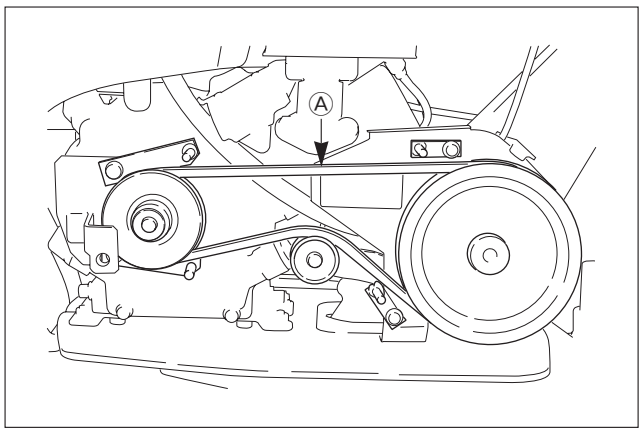
主クラッチレバーの調整が悪く、ゆるいとVベルトのスリップにより作業能率および性能が低下し、Vベルトの損傷も早くなります。

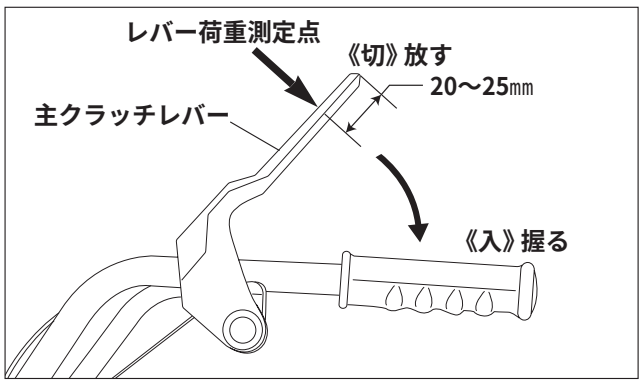
「ベルトの調整」

❶　エンジンを停止しベルトカバーを外します。

❷　主クラッチレバーを**《入》**（握った）状態でVベルトの上側中央部（Ⓐ部）を指で押さえタワミ量が **10〜15㎜** になるよう主クラッチワイヤ調整ネジで調整します。主クラッチレバーの操作荷重で調整するときは主クラッチレバー**「測定位置」**での操作荷重が20〜30N {2.0〜3.0kgf} になるように主クラッチワイヤ調整ネジで調整します。







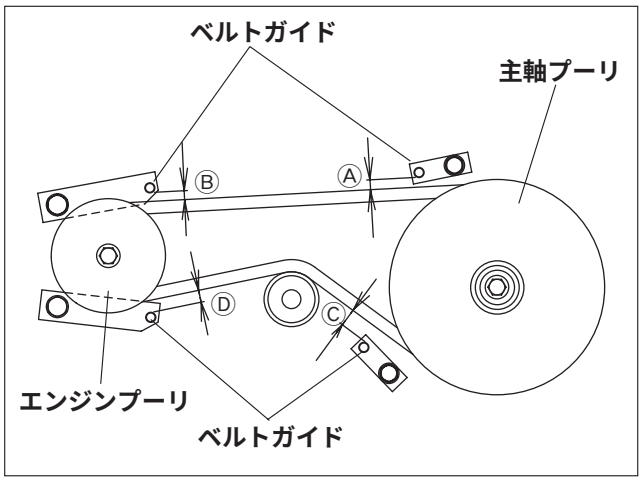
「ベルトガイド」の調整

❶ 主クラッチレバーを**《入》**にしベルトガイドとVベルトとのスキマを調整します。

Ⓐのスキマ…… **4～8㎜**
Ⓑのスキマ…… **3～5㎜**
Ⓒのスキマ…… **8～12㎜**
Ⓓのスキマ…… **8～10㎜**

❷ エンジンを始動し主クラッチレバーを入切し、**「切」**にしたときベルトが完全に静止すれば調整は完了です。

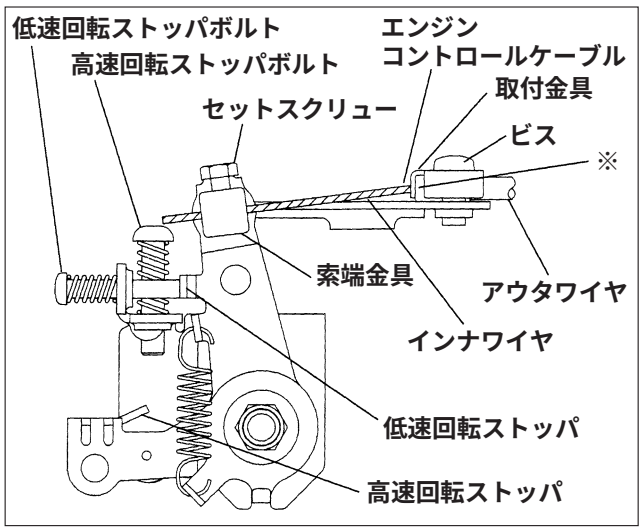
❸ エンジンを停止してベルトカバーを取付けます。



2．コントロールケーブルの調整

コントロールケーブル先端部のセット位置が悪いとスロットルレバーを**《低速》**位置にしてもエンジンのアイドリングが高かったり、**《高速》**位置にしても、最高回転に達しない場合があります。

❶ 点検……⑴ スロットルレバーをいっぱい**《低速》**にした位置で、低速回転ストッパが低速回転ストッパボルトに当たっていますか。



❷ 調整……⑴ アウタワイヤ先端を取付金具の※印部に押しあてビスで固定します。

⑵ インナワイヤを索端金具に差込み、セットスクリューで固定します。

❸ エンジンを始動し、スロットルレバーを操作して**《低速》**位置にしたとき低速回転ストッパが低速回転ストッパボルトにあたり、**《高速》**位置にしたとき高速回転ストッパが高速回転ストッパボルトにあたることを確認します。

3．ボルト・ナットの点検

・エンジン・フレーム・ハンドル・耕うん爪などの各部取付ボルト・ナットの締付けを点検します。

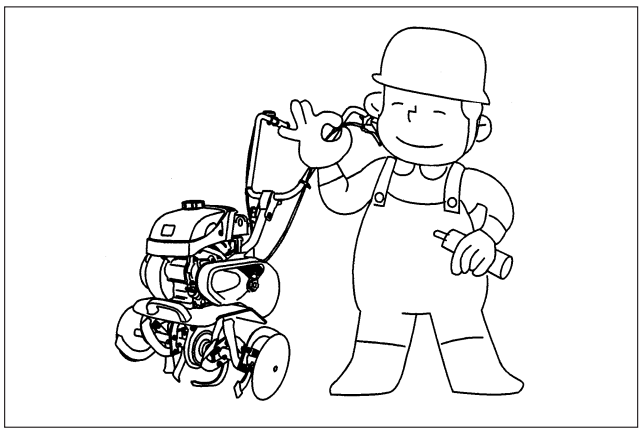
長期格納のしかた

⚠警告　火災や傷害事故防止のために

◆回転部に付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときはエンジンを停止し、各部の回転が停止してから行なってください。
◆高温部が冷えてからエンジン・マフラ・燃料タンク周囲のワラクズ等を取除いてください。火災の原因になることがあります。
◆取外したカバー類はすべて取付けてください。

シーズンが終わったら**「定期点検整備表」**（16ページ参照）の**「格納時」**の項目について点検・整備及び掃除を行い、更に次の処置をします。

1．機械の掃除と洗浄



❶　泥・ワラクズ・草などを取除き汚れをきれいに水洗いして乾いた布でふき取ります。
❷　塗装がはげた箇所は補修塗料を塗り、本機のサビやすい箇所にはグリスかオイルを塗布します。
❸　回転部・摺動部・ワイヤ類には注油しサビないようにします。
❹　サビやすい個所（車軸等）に注油します。

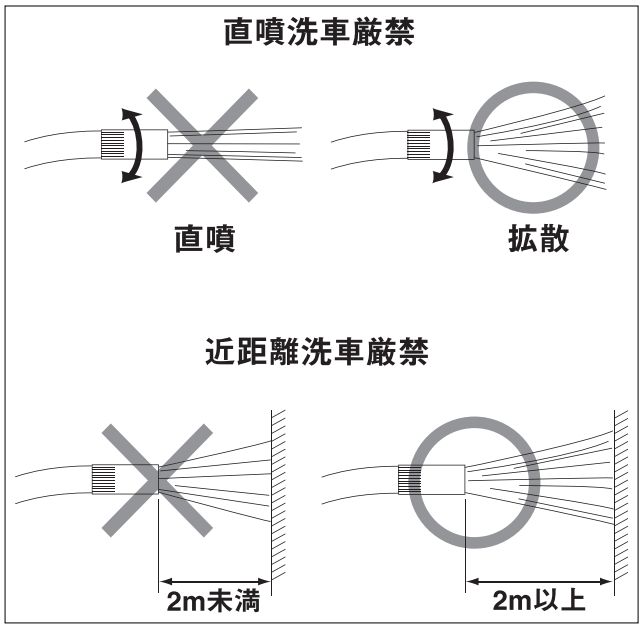
取扱いのポイント

●エンジンが熱いときは水をかけないでください。
●エンジンまわりの電気配線部には水をかけないでください。エンジン始動不良の原因となります。

●洗車時の注意
高圧洗浄機の使用方法を誤ると人をケガさせたり、本機の破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗浄機の取扱説明書・ラベルに従って正しく使用してください。

⚠警告　ヤケド、火災、傷害事故防止のために

本機を損傷させないように洗浄ノズルを拡散し、２m以上離して洗車してください。
もし直噴にしたり、不適切に近距離から洗車すると
１．電気配線部被覆の損傷・断線により火災を引き起こすことがあります。
２．油圧ホース破損により高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
３．本機の破損・損傷・故障の原因になります。
例）
（１）シール・ラベルの剥がれ
（２）電装部品、エンジン・ミッションケース等への水の侵入による故障
（３）オイルシール等のゴム類、化粧カバー等の樹脂部品等の破損
（４）塗装、メッキ面の皮膜剥がれ



2．エンジンの手入れ

❶　エンジンオイルを交換します。

オイル交換後はアイドリング回転で５分間程度運転し、各部にオイルをゆきわたらせてから停止します。

❷　スロットルレバーは**《低速》**位置にしておきます。

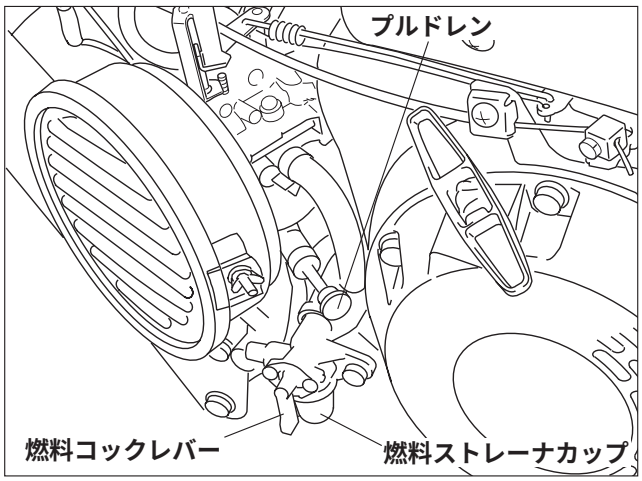
❸　本機を１ヶ月以上使用しないときは燃料変質による始動不良または運転不調にならないように、燃料タンク・燃料ストレーナ・気化器の燃料を抜きます。

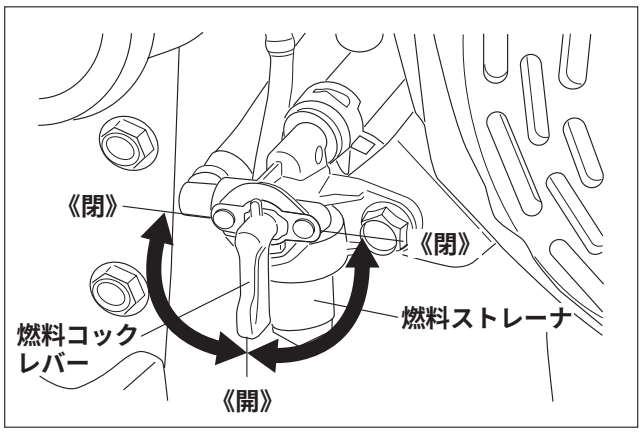
⑴　燃料タンクの燃料を給油ポンプで抜き、残量分は燃料ストレーナカップを外して抜きます。

⑵　気化器のプルドレンを引き気化器内の燃料を抜取ります。

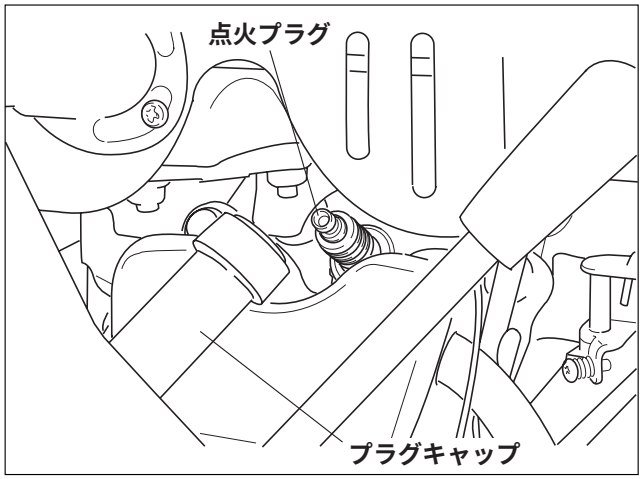
⑶　燃料を抜き終わったら燃料ストレーナカップを取付け、燃料コックレバーを**《閉》**位置にします。

⑷　燃料を抜くために外したりゆるめた箇所は元の状態に戻しておきます。





❹　点火プラグを外してシリンダ内にエンジンオイルを**「５～10mL」**注入し、リコイルスタータを引っ張り数回**「カラ回し」**をしてから点火プラグを取付け、圧縮のある位置で止めておいてください。



取扱いのポイント

- **気化器は、むやみにいじらないでください。**
- **長期間（１ヶ月以上）使用しないときは燃料腐敗で気化器内部を腐食させるので燃料コックレバーを閉じ、気化器のプルドレンを引き、燃料を抜取ってください。**
- **点火プラグを外しエンジンスイッチが《運転》位置でリコイルスタータを引くと、エンジンの電気回路が故障しますのでやめてください。**

3．格　納

⚠警告　火災防止のために

◆本機にカバーをかけるときはエンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱いときにカバーをかけると火災になることがあります。

本機の掃除・点検・整備を終えたら風通しのよい乾燥した平坦な屋内を選び、カバーをかけて保管します。

❶　主クラッチレバーは**《切》**にしてベルトの張りを解除しておきます。

取扱いのポイント

- **サビの発生を防止するため塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。**

4．再使用するときは

格納後はじめて使用するときには、定期点検整備表のシーズン前点検を行なった後に運転します。（16ページ参照）

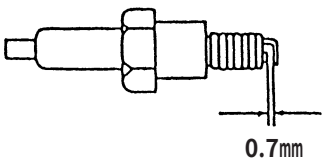
不調時の処置

・不調が発生したらすぐにその原因を調べて処置をし、故障を大きくしないようにします。
・原因がわからない場合や、調整しても再発するときはお買い上げの販売店またはお近くの当社営業所に相談し点検を受けてください。
・そのときは不調の状況とあわせて**「型式名」**・**「機械番号（製造番号）」**・**「エンジン番号」**をお知らせください。

⚠警告　ヤケドや傷害事故防止のために

◆作業中に不調が発生した場合は本機を広い平坦な場所に停車し、エンジンを止め、各部の動きが止まってから行なってください。
◆エンジン回りの点検・整備はエンジンが冷えてから行なってください。
◆取外したカバーはすべて取付けてからエンジンを始動してください。

1．エンジン部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
エンジンが始動しない。または始動困難	❶　燃料が入っていない。	・燃料を補給する。	**18**
	❷　燃料コックレバーが**《閉》**の位置になっていないか。	・燃料コックレバーを**《開》**の位置にする。	**7**
	❸　スロットルレバーの位置はよいか。	・スロットルレバーを始動位置にする。	**7**
	❹　点火プラグが湿っている。	・チョークを引いたままにしすぎたり、長時間本機を前方に倒したままにしておくと、点火プラグが湿りがちとなるので点火プラグを外しよく乾燥させる。	**21**
	❺　点火プラグの火花が出ない。または出ても弱い。	・点火プラグの電極スキマを調整する。  0.7㎜ ・点火プラグのカーボンを掃除する。 ・点火プラグを新品と交換する。 使用点火プラグ NGK-BPR6HSまたはNGK-BP6HS （納品時はNGK-BPR6HSを取付けています）	**21**

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
エンジンが始動しない。または始動困難	❻　チョークレバーが**《開》**になっている。	・チョークレバーを**《閉》**にしエンジン始動後徐々に戻す。 ・エンジンが暖まっているときはチョークレバーを**《半閉》**位置にする。	**8**
	❼　エンジンスイッチが**《停止》**になっている。	・エンジンスイッチを**《運転》**にする。	**7**
エンジンの出力不足および自然停止	❶　エアクリーナにゴミがつまっている。	・エレメントを灯油で洗浄後よく絞りエンジンオイルに浸し、固く絞る。	**20**
	❷　リコイルスタータの吸気口がつまっている。	・きれいに掃除をする。	**21**
	❸　エンジンオイルが減っている。	・エンジンオイルを規定量まで補充する。 ・エンジンオイルが古くなっているときは新しいオイルと交換する。	**18**
	❹　エンジンの圧縮がない。	・ピストンリングの摩耗などが考えられるのでお買い上げの販売店またはお近くの当社営業所に相談する。	**ー**
	❺　エンジンの冷却フィンに泥等がつまっている。	・きれいに掃除をする。	**ー**
	❻　エンジンの回転が十分あがらない。	・スロットルレバー・コントロールケーブル取付部にゆるみはないか、セットはよいか点検する。	**23**

2．本機関係

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
各部に振動が多い	❶　エンジンが振動している。	・エンジン取付ボルトを点検し、ゆるんでいれば増締めする。	**23**
	❷　ハンドルが振動している。	・ハンドル上下調節レバーを点検し、ゆるんでいれば締込む。	**5**
主クラッチレバーを操作しても走行しない	❶　Ｖベルトが伸びてスリップしている。	・Ｖベルトの張り調整をする。	**22**
	❷　主クラッチワイヤが伸びている。	・主クラッチワイヤ調整をする。	**22**

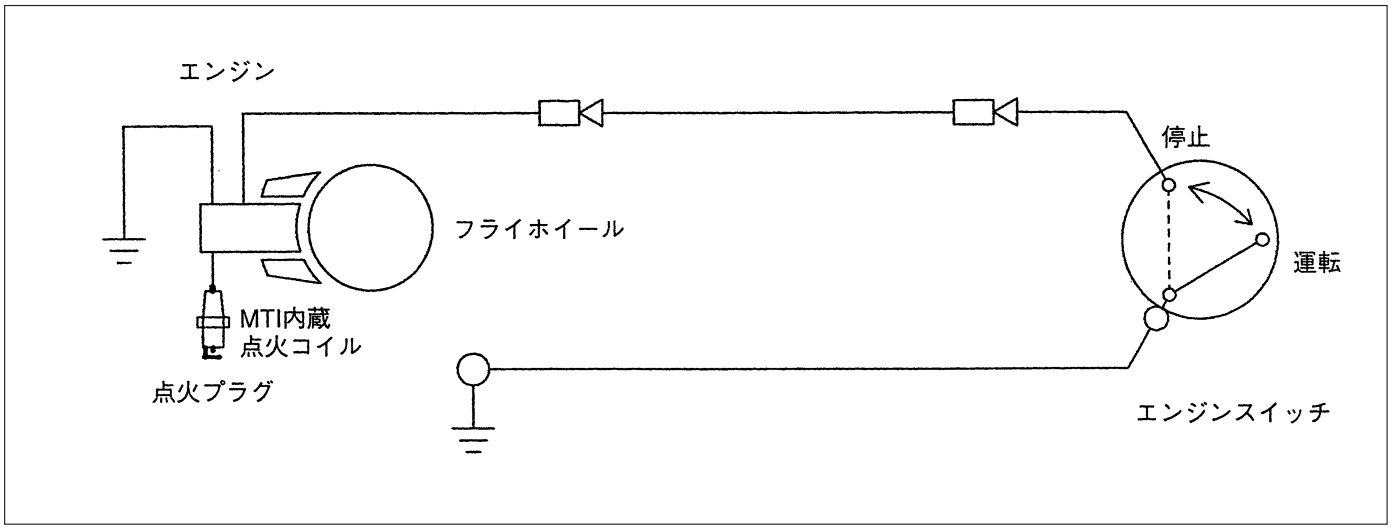
付　　表

1．主要諸元

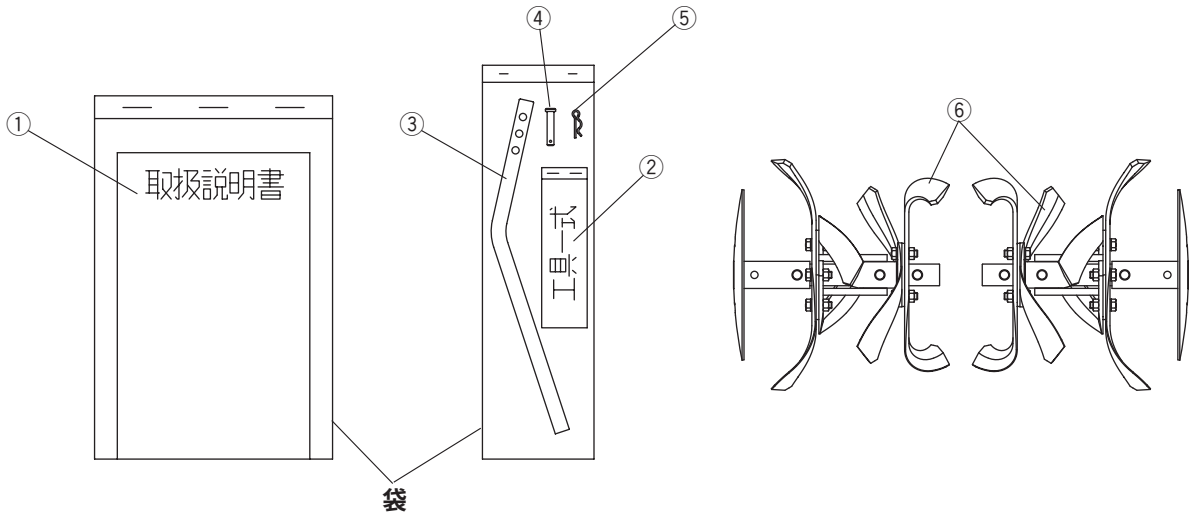
型　式　名		モデルMKR300
本機寸法	全　長（mm）	1140
	全　幅（mm）	660
	全　高（mm）	1060
本　機　質　量（kg）		36
エンジン	型　式　名	GT240P
	種　類	空冷４ストロークOHV式ガソリンエンジン
	総　排　気　量(mL)	80
	出力/回転速度 《 》内は最大出力 (kW{PS}/min^{-1})	1.3{1.8}／3600《1.7{2.4}》
	使　用　燃　料	無鉛ガソリン
	燃料タンク容量（L）	1.2
	始　動　方　式	リコイル式
走行部	主クラッチ形式	ベルトテンション式（デッドマンクラッチ式）
	走行変速段数（段）	1
	車軸回転(min^{-1})　前進	72
	車軸の形状・寸法（mm）	丸軸・φ20
耕　う　ん　幅（mm）		320/600

※この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

2．電気配線図



3．付属部品一覧表



No.	部　品　名　称	個　数	備　　考
①	取扱説明書	1	
②	工具	一式	ボックスレンチ、ドライバ、スパナ
③	抵抗棒	1	本機取付部品
④	クレビスピン	1	本機取付部品
⑤	スナップピン	1	本機取付部品
⑥	ロータ組立品	一式	本機取付部品

4．用語解説

（アイウエオ順）

アタッチメント……管理機購入後に取付ける部品。

デッドマンクラッチ…主クラッチレバーを握っているときにクラッチ**「入」**となり、主クラッチレバーを放すと**「切」**となる方式。

リコイルスタータ……手動でヒモを引きエンジンを回転させ、始動させる装置。（巻もどし付）

ロータ……回転式耕うん装置。

アフターサービスについて

●製品のご相談は、お買い上げの販売店または下記のマキタ営業所へお気軽にご相談ください。

事業所名	電話番号
札幌支店	〈011〉(783)8141
札幌営業所	〈011〉(783)8141
旭川営業所	〈0166〉(31)6501
釧路営業所	〈0154〉(37)4849
函館営業所	〈0138〉(49)9273
苫小牧営業所	〈0144〉(68)2100
帯広営業所	〈0155〉(36)3833
北見営業所	〈0157〉(26)9011
仙台支店	〈022〉(284)3201
仙台営業所	〈022〉(284)3201
古川営業所	〈0229〉(24)0698
青森営業所	〈017〉(764)4466
八戸営業所	〈0178〉(43)3321
盛岡営業所	〈019〉(635)6221
水沢営業所	〈0197〉(22)5101
郡山営業所	〈024〉(932)0218
いわき営業所	〈0246〉(23)6061
新潟支店	〈025〉(247)5356
新潟営業所	〈025〉(247)5356
長岡営業所	〈0258〉(30)5530
山形営業所	〈023〉(643)5225
酒田営業所	〈0234〉(26)3551
秋田営業所	〈018〉(863)5205
宇都宮支店	〈028〉(634)5295
宇都宮営業所	〈028〉(634)5295
小山営業所	〈0285〉(25)5559
水戸営業所	〈029〉(248)2033
土浦営業所	〈029〉(821)6086
関東物流センター	〈048〉(771)3451
埼玉支店	〈048〉(771)3462
さいたま営業所	〈048〉(777)4801
川越営業所	〈049〉(222)2512
熊谷営業所	〈048〉(521)4647
越谷営業所	〈048〉(976)6155
前橋営業所	〈027〉(232)5575
高崎営業所	〈027〉(365)3688
両毛営業所	〈0276〉(46)7661
千葉支店	〈043〉(231)5521
千葉営業所	〈043〉(231)5521
市川営業所	〈047〉(328)1554
成田営業所	〈0478〉(73)8101
木更津営業所	〈0438〉(23)2908
柏営業所	〈04〉(7175)0411
東京支店	〈03〉(3816)1141
東京営業所	〈03〉(3816)1141
中野営業所	〈03〉(3337)8431
足立営業所	〈03〉(3899)5855
大田営業所	〈03〉(3763)7553
江戸川営業所	〈03〉(3653)5171
多摩営業所	〈042〉(384)8411
立川営業所	〈042〉(542)1201
横浜支店	〈045〉(472)4711
横浜営業所	〈045〉(472)4711
川崎営業所	〈044〉(811)6167
平塚営業所	〈0463〉(54)3914
相模原営業所	〈042〉(757)2501
湘南営業所	〈0466〉(87)4001
静岡支店	〈054〉(281)1555
静岡営業所	〈054〉(281)1555
沼津営業所	〈055〉(923)7811
浜松営業所	〈053〉(464)3016
甲府営業所	〈055〉(276)7212
金沢支店	〈076〉(249)5701
金沢営業所	〈076〉(249)5701
七尾営業所	〈0767〉(52)3533
富山営業所	〈076〉(451)6260
高岡営業所	〈0766〉(21)3177
福井営業所	〈0776〉(35)1911
岐阜支店	〈058〉(274)1315
岐阜営業所	〈058〉(274)1315
多治見営業所	〈0572〉(22)4921
松本営業所	〈0263〉(25)4696
長野営業所	〈026〉(225)1022
上田営業所	〈0268〉(22)6362
飯田営業所	〈0265〉(24)1636
名古屋支店	〈052〉(571)6451
名古屋営業所	〈052〉(571)6451
一宮営業所	〈0586〉(75)5382
東名古屋営業所	〈0561〉(73)0072
知多営業所	〈0569〉(48)8470
岡崎営業所	〈0564〉(22)2443
豊橋営業所	〈0532〉(46)9117
四日市営業所	〈0593〉(51)0727
津営業所	〈059〉(232)2446
伊勢営業所	〈0596〉(36)3210
京都支店	〈075〉(621)1135
京都営業所	〈075〉(621)1135
福知山営業所	〈0773〉(23)7733
大津営業所	〈077〉(545)5594
彦根営業所	〈0749〉(22)6184
大阪支店	〈06〉(6351)8771
大阪営業所	〈06〉(6351)8771
東大阪営業所	〈06〉(6746)7531
関西物流センター	〈0725〉(46)6715
南大阪営業所	〈0725〉(46)6611
奈良営業所	〈0742〉(61)6484
橿原営業所	〈0744〉(22)2061
和歌山営業所	〈073〉(471)4585
田辺営業所	〈0739〉(25)1027
沖縄営業所	〈098〉(874)1222
兵庫支店	〈0794〉(82)7411
三木営業所	〈0794〉(82)7411
尼崎営業所	〈06〉(6437)3660
神戸営業所	〈078〉(672)6121
姫路営業所	〈0792〉(81)0204
広島支店	〈082〉(293)2231
広島営業所	〈082〉(293)2231
福山営業所	〈084〉(923)0960
三原営業所	〈0848〉(64)4850
岡山営業所	〈086〉(243)4723
宇部営業所	〈0836〉(31)4345
徳山営業所	〈0834〉(21)5583
鳥取営業所	〈0857〉(28)5761
松江営業所	〈0852〉(21)0538
高松支店	〈087〉(841)2201
高松営業所	〈087〉(841)2201
徳島営業所	〈088〉(626)0555
松山営業所	〈089〉(951)7666
宇和島営業所	〈0895〉(22)3785
高知営業所	〈088〉(884)7811
福岡支店	〈092〉(411)9201
福岡営業所	〈092〉(411)9201
北九州営業所	〈093〉(551)3481
飯塚営業所	〈0948〉(26)3361
久留米営業所	〈0942〉(43)2441
佐賀営業所	〈0952〉(30)6603
長崎営業所	〈095〉(882)6112
佐世保営業所	〈0956〉(33)4991
熊本支店	〈096〉(389)4300
熊本営業所	〈096〉(389)4300
八代営業所	〈0965〉(43)1000
大分営業所	〈097〉(567)3320
宮崎営業所	〈0985〉(26)1236
鹿児島営業所	〈099〉(267)5234
沖縄営業所	大阪支店の欄をご覧ください。

株式会社 マキタ

〒446-8502　**愛知県安城市住吉町**3-11-8

TEL.〈0566〉(98) 1711 **(代)**　FAX.〈0566〉(98) 6642

14193101001 020801